

平(へい・永山)	→ 亥軒(がいけん・永山ながやま、藩士/儒者)	I 1 5 6 2
平(へい・藪)	→ 鶴堂(かくどう・藪やぶ、儒者/詩)	K 1 5 2 9
平(へい・武内)	→ 度道(ただみち・武内/竹内、和算家)	Q 2 6 8 8
兵(へい・戸田)	→ 兵(ひょう・戸田/宮部、茂睡妻/歌人)	K 3 7 2 6
乗(へい・江村)	→ 愚亭(ぐてい・江村えむら、儒者)	C 1 7 4 9
乗(へい・安藤)	→ 秋里(しゅうり・安藤あんど、儒者/書家)	Y 2 1 4 9
乗(へい・望月)	→ 鹿門(ろくもん・望月もちづき、幕府医官)	B 5 2 1 1
平安(平庵へいあん・永田)	→ 善斎(ぜんさい・永田/広島、儒者/詩)	F 2 4 4 1
平庵(へいあん・柳川)	→ 震沢(しんたく・柳川、雪溪、儒者)	2 2 5 7
平庵(へいあん・磯田)	→ 玉秋(たまき・磯田/山守、医/国学者)	K 2 6 3 7
兵庵(へいあん・平山)	→ 兵原(へいげん・平山ひらやま、兵学/武芸者)	2 7 2 5
瓶菴(へいあん・伊達)	→ 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/詩歌人)	B 2 9 3 7

2700 **米庵**(へいあん・市河いちかわ、名;三亥みつゐ、寛斎男)1779-185880 越中富山の儒者;

1795頃林述斎・柴野栗山門、書家;1799書塾小山林堂を開く、1811富山藩に出仕/加賀藩儒、幕末の3筆(巻菱湖・貫名海屋と)、門弟5千、摘木雲潭(大村藩絵師)の兄、養嗣子;遂庵(すいあん、1812「米庵墨談」36「墨場必携」、「市河米庵漫抄」「百筆譜」「米庵先生詩集」外著多数、[米庵(;号)の字/通称/別号]字;孔陽、通称;小左衛門、

別号;亦顛/楽斎/金洞山人/金羽山人/小山林堂(書塾)/顛道人/百筆齋

米庵(へいあん)	→ 牛呑(ぎゅうどん、俳人)	G 1 6 4 6
平安隠士(へいあんいんし)	→ 定保(さだやす・佐々木、和算家)	K 2 0 0 7
平安狂言堂(へいあんきょうげんどう)	→ 春翠子(しゅんすいし・近松、浄瑠璃作者)	K 2 1 0 8
平安尚(へいあんしょう)	→ 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌)	G 3 8 3 0
平安堂(へいあんど)	→ 門左衛門(初世もんざえもん・近松、浄瑠璃作者)	4 4 3 7
平安堂(へいあんど)	→ 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌)	B 4 8 7 8

**平安和歌四天王**(へいあいわかしてんのう、平安四天王)江戸中期京で活躍した4人の歌人

	→ 澄月(ちょうげつ・智脱、1714-98)	2 8 2 1
	→ 蘆庵(ろあん・小沢、1723-1801)	5 2 0 1
	→ 蒿蹊(こうけい・伴、1733-78)	1 9 0 8
	→ 慈延(じえん・大愚、1748-1805)	2 1 0 5
平市(へいいち・太田)	→ 久孝(ひさたか・太田おた、藩士/国学者)	I 3 7 8 9
平一郎(へいちろう・熊谷)	→ 箕山(きざん・熊谷、儒者/詩人)	I 1 6 5 6
平一郎(へいちろう・津田)	→ 安平(やすひら・津田つだ、藩士/国学者)	G 4 5 2 8
平允(へいいん・加須屋)	→ 武義(たけよし・加須屋かすや/岩越、藩士/歌)	W 2 6 3 9
並蔭(へいいん/つらかげ・村田)	→ 春野(はるの・村田、春門男/国学者)	G 3 6 6 8
瓶隠子(へいいんし)	→ 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩)	H 2 5 7 7
萍雲逸民(へいいうんいつみん)	→ 一蝶(初世いちちよう・英はなぶさ、絵師)	C 1 1 0 8

2701 **平右衛門**(へいえもん・水野みずの、名;義重、左近正重男)1589-165466 三河の生/紀伊和歌山藩士:

初め徳川家康臣/大坂両陣後は駿府の徳川頼宣臣/1619頼宣転封で父と和歌山住、1620家督相続、「水野左近物語」著、

[平右衛門(;通称)の幼名]三郎九郎

- 2710 **兵右衛門**(へいえもん・松井まつい)?- ? 能楽;1685「間の本あいのほん」十冊181番書写
- 2711 **平右衛門**(へいえもん・金屋かなや)?- ? 江前中期1688-1736頃京寺町二条下ル二丁目の書肆、絵本の版元、1704「花洛細見図」編/1716「華洛絵馬評判」編
- 2712 **平右衛門**(へいえもん・升屋ますや、姓;山片/名;重喜)1764-183673 大阪の米仲買商;代々升屋平右衛門、1771(8歳)家督継嗣;大名貸しで苦境/番頭山片蟠桃の尽力で家運再興、40余藩と取引、陸前仙台藩の蔵元として有名、「仙台下向日記」「旅譚」著、

[平右衛門(；通称)の別通称/屋号]別通称;升平封へい、屋号;升屋/山形屋

2713 平右衛門(へいえもん・坪内つぼうち) 1812-8271 美濃加茂郡太田村の農業/尾張藩代官手代本役、1865尾張藩譜代席御徒士格/1869致仕、名古屋郊外上笹島村で帰農、「増補税祖秘事大全」編、妻;ミチ、逍遙の父、

[平右衛門(；通称)の別通称/号]別通称;平之進、号;其樂きらく

- 平右衛門(へいえもん・下石)→ 道二(どうに・下石おろし、武道;槍術家) G 3 1 8 4  
平右衛門(へいえもん・小笠原)→ 政登(まさなり・小笠原、幕臣/記録) F 4 0 3 9  
平右衛門(へいえもん・乾)→ 長孝(ながたか・乾いぬい、藩士/漢学) E 3 2 0 6  
平右衛門(へいえもん・遠山)→ 頼永(よりなが・遠山とおやま、歌学者) J 4 7 3 1  
平右衛門(へいえもん・田中)→ 桐江(とうこう・田中/田、儒者/詩人) D 3 1 7 2  
平右衛門(へいえもん・金屋)→ 井炊(せいすい、俳人) G 2 4 3 5  
平右衛門(へいえもん・羽屋/木村)→ 寸木(すんぼく・木村、酒造業/俳人) D 2 3 6 3  
平右衛門(へいえもん・伊藤)→ 重澄(しげすみ・伊藤いとう、藩士/奉行) R 2 1 1 5  
平右衛門(へいえもん・三木)→ 貞成(さだなり・三木、儒者/浄瑠璃注釈) F 2 0 4 1  
平右衛門(へいえもん・中田)→ 祭堂(さんどう・中田/藤、与力/儒者) M 2 0 6 6  
平右衛門(へいえもん・川路)→ 宜麦(ぎばく・川路かわじ、幕臣/俳人) 1 6 2 5  
平右衛門(へいえもん・大久保)→ 忠良(ただなが・大久保、幕臣/記録) Q 2 6 3 2  
平右衛門(へいえもん・筒井)→ 忠英(ただてる・筒井、幕臣/書院番) P 2 6 9 4  
平右衛門(へいえもん・藤沢)→ 巢兆(そうちょう・建部たけべ、俳人) 2 5 1 7  
平右衛門(へいえもん・菱田)→ 暮蓼(ぼりょう・菱田ひだ、俳人) E 3 9 8 8  
平右衛門(へいえもん・鎮西)→ 清行(きよゆき・鎮西ちんぜい、神職/歌人) U 1 6 7 4  
平右衛門(へいえもん・山田)→ 荊石(けいせき・山田やまだ、農業/和算家) G 1 8 2 1  
平右衛門(へいえもん・新屋/田中)→ 適斎(てきさい・田中、商家/儒者) B 3 0 8 9  
平右衛門(へいえもん・太田)→ 文角(ぶんかく・太田おた、俳人) E 3 8 9 2  
平右衛門(へいえもん・山口)→ 太乙(たいおつ・山口、商家/俳人) J 2 6 3 3  
平右衛門(へいえもん・東海林)→ 式麿(しきまろ・喜多川、絵師) Q 2 1 1 1  
平右衛門(へいえもん・高砂屋)→ 正三(初世しょうざ・並木、浄・歌舞伎作者) S 2 2 2 4  
平右衛門(へいえもん・那波屋/春名)→ 忠成(ただなり・春名はるな、読本) F 2 6 4 9  
平右衛門(へいえもん・安井)→ 滄洲(そうしゅう・安井、藩儒/息軒の父) B 2 5 8 4  
平右衛門(へいえもん・川上/上田)→ 千風(ちかぜ・上田/紀、材木商/国学/歌) B 2 8 0 7  
平右衛門(へいえもん・米屋)→ 茂乗(しげのり・殿村とのむら、商家/歌人) N 2 1 7 8  
平右衛門(へいえもん・米屋)→ 茂濟(しげまさ・殿村とのむら、茂乗男/商家/歌人) C 2 1 9 8  
平右衛門(へいえもん・酒井)→ 素英(そえい・酒井さかい、俳人) J 2 5 3 1  
平右衛門(へいえもん・千村)→ 峒陽(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7  
平右衛門(へいえもん・宇夫形/長尾)→ 無墨(むぼく・長尾/宇夫形、儒者/詩) C 4 2 9 9  
平右衛門(へいえもん・守田)→ 通敏(みちとし・守田もりた、藩士) B 4 1 9 9  
平右衛門(へいえもん・高木)→ 祐平(すけひら・高木たかぎ、藩士/服忌学) H 2 3 0 0  
平右衛門(へいえもん・間庭)→ 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8  
平右衛門(へいえもん・竹村)→ 茂雄(しげお・竹村たけむら、農業/国学/歌) B 2 1 9 3  
平右衛門(へいえもん・竹村)→ 茂枝(しげえ・竹村、茂雄孫/国学/歌) B 2 1 9 2  
平右衛門(へいえもん・滝)→ 牛郷(うしさと・滝たき/柳田、藩士・歌人) E 1 2 7 7  
平右衛門(へいえもん・木村)→ 履軒(りけん・木村きむら、儒者/書家) 4 9 9 5  
平右衛門(へいえもん・犬塚)→ 良重(よししげ・犬塚いぬづか、幕臣/国学) L 4 7 6 2  
平右衛門(へいえもん・大塚)→ 長時(ながとき・大塚おつか、藩士/儒/歌) L 3 2 4 4  
平右衛門(へいえもん・服部)→ 宗忠(むねただ・服部はっとり/野辺、藩士/国学) E 4 2 1 8  
平右衛門(へいえもん・樋口)→ 雄貞(たけさだ・樋口ひぐち、農業/啓蒙書) Y 2 6 2 4  
平右衛門(へいえもん・宮下)→ 穂垂(ほたり・宮下みやした、国学者/歌人) G 3 9 4 1  
平右衛門(へいえもん・矢野)→ 正胤(まさたね・矢野やの、藩士/国学/歌) T 4 0 3 1  
平右衛門(へいえもん・宮下)→ 良文(よしふみ・宮下、穂垂男/国学/歌) P 4 7 4 4  
平右衛門(へいえもん・佐々)→ 長興(ながおき・佐々ささ、幕臣/国学) M 3 2 1 7

兵右衛門(へいえもん・寺山)→ 吾鬢(あずら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8  
 兵右衛門(へいえもん・相坂)→ 則武(のりたけ・相坂あいさか、藩士/文筆) E 3 5 8 9  
 兵右衛門(へいえもん・高垣)→ 重枝(しげえ・高垣たかがき、藩士) Q 2 1 6 5  
 兵右衛門(へいえもん・浦上)→ 玉堂(ぎよくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) D 1 6 0 7  
 兵右衛門(へいえもん・片桐)→ 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0  
 兵右衛門(へいえもん・伊藤)→ 不伝(ふでん・伊藤、居合術不伝流祖) D 3 8 5 1  
 兵右衛門(へいえもん・新井)→ 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0  
 兵右衛門(へいえもん・岩沢)→ 直真(なおさね・岩沢いわさわ、藩士/歌人) L 3 2 2 3  
 兵右衛門(へいえもん・渡瀬)→ 重敏(しげとし・渡瀬わたせ、藩士/国学者) a 2 1 1 3  
 兵右衛門(へいえもん・小野)→ 光好(みつよし・小野おの/橘屋、歌人) I 4 1 2 5  
 兵右衛門(へいえもん・西尾)→ 勝重(かつしげ・西尾にしお、農家/歌人) V 1 5 3 1  
 兵右衛門(へいえもん・中川)→ 秀実(ひでさね・中川なかがわ、国学/神職) K 3 7 3 6  
 兵右衛門(へいえもん・中田)→ 蕃延(しげのぶ・中田なかつ、藩士/歌人) Z 2 1 5 6  
 兵右衛門(へいえもん・木屋)→ 考保(としやす・北村きたむら、商家/歌人) U 3 1 9 9  
 兵右衛門(へいえもん・和泉屋)→ 致(いたす・秦はた、商家/国学) K 1 1 5 6  
 兵右衛門(へいえもん・宇野)→ 定興(さだおき・宇野うの、国学者) N 2 0 9 2  
 兵右衛門(へいえもん・薄田)→ 勝従(かつより・薄田すすきだ、藩士/国学) U 1 5 8 0

2714 米園(べいえん) ? - ? 大阪の俳人;1773几董「明鳥」1句/76道立「写経社集」1句入、  
 [木槿むくげにもまつにも露の一夜哉](あけ鳥/217)

米園(べいえん) → 稻坡(とうは・松岡、藩士/俳人) G 3 1 9 0  
 米園(べいえん・八木) → 庭雅(ていが・八木やぎ、藩士/俳人) 3 0 4 4  
 米園(べいえん・築山) → 築山(らくざん・築山つきやま、絵師) B 4 8 1 5  
 病翁(へいおう・小林) → 寒翠(かんすい・小林こばやし、藩士/漢蘭学) H 1 5 6 9  
 米翁(べいおう・柳沢) → 信鴻(のぶとき・柳沢、2世米仲、藩主/俳) C 3 5 2 8  
 炳音(へいおん・賀茂) → 水穂(みずほ・賀茂かも、勤皇/軍人/神職) I 4 1 6 7  
 平荷(へいか・黄表紙) → 岡持(おかもち・手柄てがら、狂歌) 1 4 0 9  
 平柯(へいか・村井/邨井/村) → 忠漸(ちゅうぜん・村井/邨井、儒医/和算) G 2 8 5 3

2715 米華(べいか・中島なかじま、幹右衛門季親男) 1801-34<sup>34</sup> 豊後佐伯の儒者;日田広瀬淡窓門;  
 都講/筑前亀井昭陽門/江戸昌平鬻入/古賀侗庵門;塾長、帰郷;佐伯藩儒;藩校四教堂教授、  
 「愛琴堂集」「愛琴堂詩醇」「愛琴堂詩鈔」「如蘭詩集」/1828「日本詠史新楽府」著、  
 「米華遺稿」、  
 [米華(;号)の名/字/通称/別号]名;大賚だいらい、字;子玉/如玉、通称;盛太郎/増太、  
 別号;海棠窠主人/古香外史/愛琴堂

米華(べいか・小原) → 重哉(しげや・小原おはら、藩士/司法) N 2 1 6 7  
 平花庵(へいかあん) → 雨什(うじゅう・生方うぶかた、俳人・狂歌) C 1 2 8 0  
 平花庵(へいかあん) → 勝房(かつふさ・高井、神職/俳人) N 1 5 8 3  
 萍華軒(へいかげん) → 雄淵(ゆうえん・大場おおば、神職/俳人) 4 6 8 0  
 瓶花庵(へいかあん) → 北岸(ほくがん・榎田/平、儒医/詩人/花) C 3 9 9 8  
 米花庵(3世へいかあん) → 田社(でんしゃ・谷村、俳人) D 3 0 6 9  
 米海(へいかい・伊東) → 裕春(ゆうしゅん・伊東/伊藤、和算家) C 4 6 4 0  
 米花園(べいかえん) → 可敬(かけい;字・夏目なつめ、商家/地誌) K 1 5 7 4

2716 平角(へいかく・平野ひらの、名;定孝) 1757-1825<sup>69</sup> 陸中盛岡の豪商、俳人:白雄/重厚/暁台門、  
 素郷と並称、庭園[梅屋敷]造営;開放、仙台随鳳寺南山禅師に私淑/得度剃髪、梅園内に住、  
 俳諧/狂歌/華道/茶道を嗜む、「梅園句集」「鶉の目」「鷹の目」著、「しはふくかせ」編、  
 1793「無功德」「芭蕉百回忌」編、1825「平角句稿」編、  
 [平角(;号)の字/通称/別号]字;子詢、通称;治兵衛、  
 別号;梅円/梅園/梅翁/梅花/十里/草堂/梅廼実成/清芳亭長/円斎

平角(へいかく・三宅) → 禎卿(ていけい・三宅みやけ、儒者) 3 0 6 4  
 平格(へいかく・小川/杉山/中西) → 元瑞(げんずい・中西、藩士/医者) K 1 8 3 5  
 平格(へいかく・上野) → 片石(へんせき・上野うえの、藩士/俳人) B 2 7 3 2

平格(へいかく・近藤) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0  
 平格(へいかく・梅辻) → 秋漁(しゅうぎょ・梅辻/琴、神職/儒者) W 2 1 9 0  
 平学(へいがく・築田) → 義重(よししげ・築田/梁田、家老/測量) D 4 7 6 0  
 平学(へいがく・坂川) → 暘谷(ようこく・坂川さかがわ、書家) 4 7 8 5  
 平学(へいがく・狩野) → 保村(やすむら・狩野かのう、神職/国学者) F 4 5 7 1  
 米嶽(まいがく・佐藤) → 陶崖(とうがい・佐藤、医/陶工) C 3 1 0 1  
 米華齋(まいかさい/米華山人/米華道人) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1  
 米花齋榮之(まいかさいえいし) → 榮之(えいし・鳥文齋ちようぶんさい、幕臣/絵師) 1 3 2 8  
 米花齋英之(まいかさいえいし) → 英之(えいし・米花齋、絵師) B 1 3 9 9  
 平館(へいかん・田鎖) → 鶴立齋(かくりゅうさい・田鎖たぐさり、藩士/絵師) K 1 5 5 9  
 平堪(へいかん・二階堂) → 慎叟(しんそう・二階堂、幕府儒員) P 2 2 1 9  
 閉閑(へいかん・宇都宮) → 夫木(ふぼく・宇都宮うつのみや、神職/歌) I 3 8 0 1  
 弊冠子(へいかんし) → 政礼(まさり・村井/水野、廷臣/勤王家) G 4 0 3 2  
 平淇(へいき・二階堂) → 慎叟(しんそう・二階堂、幕府儒員) P 2 2 1 9  
 平喜(へいき・松井) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3  
 兵記(へいき・笠原) → 貞康(さだやす・笠原かさはら、藩士/国学) O 2 0 2 7

2717 **斃己齋**(へいきさい・荻野おぎの、重良2男)?-? 江中期享保1716-36頃備後福山藩士の家、  
 儒者:佐藤直方・浅見綱齋門;崎門学を修学、藩主水野家除封後は兄と備後三次に移住、  
 1722「担当雑志」、「易学啓蒙講義」、「祭礼筆記」著、  
 [斃己齋(;号)の名/通称/別号]名;重祐/重裕、通称;荘右衛門、別号;払目翁

平奇山(へいきざん) → 眞酔(ますい・石橋庵いしばしあん、国学/戯作) I 4 0 9 2

2718 **平吉**(へいきち・渡辺わたなべ、名;直、渡辺吉之進清男)1763-183371 長門萩藩士;記録方、  
 1815(文化12)「相府年表」編

2719 **平吉**(へいきち・英はなぶさ、名;遵)1780-183051 江戸の書肆万笈堂まんきゅうどう[英屋]主人、  
 江戸本石町十軒店だな住、医学館御用、狩谷椽齋えきさい・松崎慊堂こうどうと交友、  
 「慊堂日曆」各所に「万笈来」とある、1812堤朝風「近代著述目録」補刊、  
 「古板本目録」「釈氏叢書目録」「叢書目録」「物語目録」「日本金石年表」「活字板目録」著、  
 万笈堂は群書類従を売り広めた店として有名、大助の父

平吉(へいきち・内田) → 順也(じゅんや・内田、俳人) K 2 1 5 3  
 平吉(へいきち・北村) → 季文(きぶん・北村、歌人) B 1 6 7 5  
 平吉(へいきち・安東) → 侗庵(とうあん・安東あんどう、儒者) 3 1 7 6  
 平吉(へいきち・梅園) → 惟朝(これとも・梅園/土師/菅原、神職/国学) F 1 9 9 8  
 平吉(へいきち・中村) → 治助(初世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 3  
 平吉(へいきち・長井) → 在寛(ありひろ・長井/馬淵、藩士/儒者) F 1 0 7 1  
 平吉(へいきち・萩原) → 元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者) C 4 4 1 6  
 平吉(へいきち・岡沼) → 念々(ねんねん・岡沼、俳人) 3 4 6 7  
 平吉(へいきち・中野) → 君規(きみのり・中野、藩士/詩文) M 1 6 0 6  
 平吉(へいきち・高階) → 貞房(さだふさ・高階たかしな、藩士/国学者) J 2 0 6 0  
 平吉(へいきち・小川) → 墨春亭梅曆(ぼくしゅんてい・いうめまる、絵師/戯作) D 3 9 4 4  
 平吉(へいきち・安部) → 春貞(はるさだ・安部あべ、藩士/連歌) J 3 6 5 6  
 平吉(へいきち・米屋) → 茂清(しげきよ・殿村ともむら、商家/歌人) N 2 1 7 9  
 平吉(へいきち・西村) → 清臣(きよおみ・西村にしむら、藩士/歌人) U 1 6 0 5  
 平吉(へいきち・尾関) → 勝栄(かつひで・尾関おせき/石田、藩士/歌) T 1 5 8 9  
 丙吉(へいきち・荘原/冷泉) → 古風(ひさかぜ・冷泉/荘原、医者/国学) 3 7 9 2  
 兵吉(へいきち・森/毛利) → 兵橋(ひょうきつ・森もり/毛利重政、武将) M 3 7 4 1  
 兵吉(へいきち・横井) → 時安(ときやす・横井よこい、藩士) K 3 1 2 2  
 兵吉(へいきち・田母神) → 顕孝(あきたか・田母神たもがみ、藩士/記録) D 1 0 4 8  
 兵吉(へいきち・一色) → 重熙(しげひろ・一色いっしき、藩士/漢学者) S 2 1 4 8  
 兵吉郎(へいきちろう・柳川) → 楊江(ようこう;号・柳川やながわ/源、文筆) 4 7 7 9  
 兵橋(へいきつ・森/毛利) → 兵橋(ひょうきつ・森もり/毛利重政、武将) M 3 7 4 1

- 兵橋(へいきつ・毛利) → 重長(しげなが・毛利もうり、幕臣/奉行) a 2 1 7 1  
兵橋母(へいきつのはは・毛利) → 重長母(しげながのはは・毛利もうり、歌人) a 2 1 7 2
- 2721 蔽牛(へいぎゅう、稲津いなづ、庄七、祇空男)?-? 俳人;1724短冊百枚を大阪住吉社に奉納;  
前年父祇空が長門一宮住吉社に百人一句百枚の発句短冊を寄進、その撰洩れ句を奉納
- 2720 米牛(へいぎゅう・中瀬なかせ) 1813-1861 49 伊勢山田浦口町の俳人:神風館15世為田只青門、  
書;古森省吾・山本源吾門、寺子屋を開設、1844「笠日記」著、  
[米牛(;号)の通称/別号]通称;三郎、別号;一漚齋いちおうさい/夜雨亭5世
- 斃休堂(へいきゅうどう) → 重義(しげよし・塙はなわ、藩士/攘夷論) T 2 1 1 7
- 2722 平魚(へいぎょ・茅渚ちぬ) ? - ? 大阪の読本作者;  
1812「太万迺佐志玖之たまのさしぐし」;渡辺羅月画/29芝屋芝叟「玉搔頭」増補(画;羅月)
- 2723 米居(へいきよ・別号;夜雨亭/路人)?-? 信濃善光寺の俳人;1783維駒「五車反古ごしやほぐ」1句入、  
[としどしや二人の親の煤すごもり](五車反古;485)  
(煤すごもり;煤払の日は老人・病人は別室に移る/毎年両親は煤ごもりし安泰の年越)
- 米居(へいきよ・石津) → 亮澄(すげずみ・石津いしづ、国学/歌人) C 2 3 2 6  
萍郷(へいきょう;号) → 永恩(えいおん;法諱・春澤、臨濟僧) 1 3 1 6  
平橋庵(へいきょうあん) → 敲氷(こうひょう・野沢/上矢、俳人) B 1 9 8 7
- 2724 平九郎(へいくろう・鈴木すずき、名;重固、中嶋敬成2男) 1807-64 58 武州柴崎村の代々名主の家の生、  
1835(天保6)妻嘉代・長男寅太と共に鈴木家を継承(鈴木家は20年間絶えていた)、  
柴崎村の惣代・名主など要職を務める、俳諧・詩・囲碁を嗜む、「公私見聞録」「公私日記」著
- 平九郎(へいくろう・太田) → 白雪(はくせつ・太田、俳人) D 3 6 4 8  
平九郎(へいくろう・森) → 春樹(はるき・森もり、商人/画/俳人) G 3 6 2 5  
平九郎(へいくろう・吉田) → 高憲(たかのり・吉田よしだ、藩士/本草家) M 2 6 7 9  
平九郎(へいくろう・荒尾) → 敏樹(としき・荒尾あらお、幕臣;鉄砲奉行) U 3 1 0 0  
平九郎(へいくろう・竹村) → 茂枝(しげえ・竹村たけむら、国学者/歌人) B 2 1 9 2  
平九郎(へいくろう・尾関) → 勝清(かつきよ・尾関おげき、藩士/歌人) T 1 5 8 8  
平九郎(へいくろう・田村) → 顕国(あきくに・田村たむら、国学者/神道) H 1 0 8 6  
平九郎(へいくろう・木下) → 光徳(みつなり・木下きのした、藩士/国学) I 4 1 8 1  
兵九郎(へいくろう・大久保) → 忠順(ただより・大久保おおくぼ、旗本/歌) U 2 6 2 2  
兵九郎(へいくろう・鈴木) → 重視(しげみ・鈴木すずき/佐野、幕臣/奉行) Z 2 1 1 9  
兵群(へいぐん・木村) → 信尹(のぶただ・木村、藩士/系譜作成) B 3 5 8 6  
並継(へいけい・奥/漆島) → 並継(なみつぐ・奥おく/漆島/藤波、神職/勤王/官僚) L 3 2 5 2  
秉軒(へいけん・加藤) → 泰恒(やすつね・加藤かとう、藩主/画/歌人) F 4 5 6 6
- 2725 兵原(へいげん・平山ひらやま、名;潜、勝寿[勝壽]男) 1759-1828 70 江戸の儒者;昌平黌入;聖堂出役、  
1796御普請役見習/97致仕、兵学・武術家;長沼流兵学・大島流槍術・渋川流柔術・  
武衛流砲術を修得、武術道場を開設;忠孝眞貫流を開き祖、1807父の跡を継ぎ小普請組、  
ロシア船渡来に際し幕府に上申;不穩分子の風評;1814道場閉鎖/以後著述活動に専念、  
1790「赤穂義士復仇論」1811「狄仁傑論」、「孫子衍義」「海防問答」「兵原十編」「杞憂迂談」、  
「戦船図彙」「東西問答駁説」「駁射学正宗」「武学正路」「砲戦提綱」「練銃図説」外著多数、  
[兵原(;号)の字/通称/別号]字;子竜、通称;行蔵、別号;兵庵/練武堂/運籌うんちゆう真人、  
法号;天秀賢道居士
- 平元(へいげん・北条) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2  
平彦(へいげん・築山) → 築山(らくざん・築山つきやま、絵師) B 4 8 1 5  
米元山主(へいげんさんしゅ;号) → 等楊(とうよう・雪舟、臨濟僧/水墨画) H 3 1 7 1
- 2726 平五(へいご・長尾ながお) ? - ? 関東管領の命で1491荒廃した金沢文庫を封緘;  
「関東禅林詩文等抄録」入
- 2727 瓶吾(へいご・橋香亭きこうてい、通称;橋屋平兵衛)?-? 江中期大阪南竹屋町噺本作者、  
1777「時勢話大全」編
- B2751 柄梧(へいご・平野ひらの、通称;平兵衛/善次右衛門)?-? 江中期;長崎通事、菊舎尼の華音の師
- 平吾(平五へいご・中村) → 三近子(さんきんし・中村、儒者/教訓書) F 2 0 7 7  
平吾(へいご・萩原) → 元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者) C 4 4 1 6

- 平呉(へいご) → 藪八(2世そのはち・宮古路、浄瑠璃太夫) E 2 5 1 9  
兵吾(へいご・堤) → 信足(のぶたり・堤つみ、陪臣/国学/歌人) J 3 5 2 1  
丙午(へいご・坂牛) → 助丁(すけあつ・坂牛/阪牛さこうし、藩士/地誌)) G 2 3 0 1  
米護(へいご・高島) → 米護(よねり・高島たかばたけ、商家/国学) N 4 7 7 3  
並戸安売(へいごあんばい) → 田楽(でんがく・椒芽きのめ、医者/戯作者) D 3 0 2 5
- 2728 萍江(へいこう) ? - ? 俳人;1786蝶夢が浜名湖遊覧に伴った老僕;  
蝶夢「遠江の記」入;[その橋の跡さへ見せず朝霞]
- 2729 平岡(へいこう・水走みずはしり、名;嘉言/嘉玄)1753-181563 河内枚岡の医者/大阪で開業医、  
のち枚岡神社祠官、漢文/俳諧を嗜む、「病徴方義」「方苑診視要訣」/1808「方苑」著、  
1810「四診脈学」著、12「何筆談附脈状」校訂、  
[平岡(;号)の字/通称]字;章孟、通称;飛驒
- 秉衡(へいこう・沖おき) → 天外(てんがい・沖おき、儒者/勤王派) D 3 0 2 4  
米行子(へいこうし) → 素毛(そもう・加藤かとう、遣米使に随行) K 2 5 4 5  
米谷(へいこく・武田) → 車籠(しゃりゅう・武田たけだ、歌人) Z 2 1 3 8  
閉戸先生(へいこせんせい) → 清貞(きよさだ・高田たかだ、藩士/国学) U 1 6 6 3  
平五大夫(へいごたいふ) → 致頼(むねより・平たいら、武将) D 4 2 4 3
- 2730 平五郎(へいごろう・井上いのかげ、名;正式/屋号;橘屋)?-? 奈良の茶人:茶人土門家[松屋]と親交、  
松屋の記録類を写す、1771「松屋名物集」著
- 平五郎(へいごろう・荘田) → 豊城(ほうじょう・荘田しょうだ、藩士/儒者) B 3 9 7 6  
平五郎(へいごろう・大串) → 元善(もとよし・大串おおくし/平野、儒者) E 4 4 7 0  
平五郎(へいごろう・江間/宮田) → 円陵(えんりょう・宮田、儒者) F 1 3 5 0  
平五郎(へいごろう・谷) → 左中(さちゅう・谷たに、幕臣) K 2 0 4 6  
平五郎(へいごろう・日野) → 文車(ぶんしゃ・日野ひの、藩家老/俳人) F 3 8 6 7  
平五郎(へいごろう・岡野) → 湖中(3世こちゅう、岡野、藩士/俳人) D 1 9 3 2  
平五郎(へいごろう・弘) → 正方(まさかた・弘ひろ、藩士/歌人) B 4 0 9 8  
平五郎(へいごろう・石井) → 繁尚(しげなお・石井いしい/柴田、里正) N 2 1 9 4  
平五郎(へいごろう・新村) → 秀起(ひでおき・新村しんむら、国学者/歌) J 3 7 8 8  
平五郎(へいごろう・藤井) → 春蔭(はるかげ・藤井ふじい、旅館業/国学) K 3 6 7 4  
平五郎(へいごろう・小島) → 盛可(もりよし・小島こじま、藩士/国学/神職) J 4 4 9 4  
兵五郎(へいごろう・前田) → 孝信(たかのぶ・前田、藩士/文筆家) M 2 6 7 2
- 2731 平砂(2世へいさ・皐月さつき、名;良珍)1708-8376 江戸の俳人:貞佐門/江戸其角座平砂側の点者、  
和漢学に通ず、1736「三盃酢」/40「其砧」/59「桑岡集」「続桑岡集」/72「而形じぎょう集」編、  
1754「童の的」点句入、  
[平砂2世の別号] 其樹(初号)/律佐/分洲/解庵/衆山/閑花林/新花林/午花林
- 2732 平砂(3世へいさ・皐月さつき、本姓;篠崎しのぶ)1736-181378 江戸の俳人:2世平砂門、1781「歳旦」編、  
1792「米庵追善集」93「俳諧続芝集」編、1802「可屋野」編/09「俳諧種瓢二篇」評、  
[平砂3世(;号)の別号] 万葉庵/東宇/東寓、法号;万葉庵麗海居士  
森東寓(赤穂の俳人)との関係は?→ 東寓(とうぐう・森、玉葉館) C 3 1 9 4  
平砂(初世へいさ・桑岡) → 貞佐(ていさ・桑岡、俳人) 3 0 0 3
- 2733 平斎(へいさい・国枝くにえだ) ? - 1830? 尾張名古屋赤塚町の俳人:士朗門、  
「飲中八歌仙」、「一目ふし」編  
[平斎(;号)の通称/別号]通称;嘉兵衛/喜兵衛、別号:丹丘
- 2734 瓶斎(へいさい・三宅みやげ、名;安懿やすよし、代官安定男)1801-6060 越後村上藩士;1816筆生として出仕、  
書記役・番士/1838学館(後の藩校克従館)訓導/江戸詰後村上三条代官/44家督嗣/51致仕、  
測量術師範・砲術師範を歴任/1858藩財政担当、詩歌を嗜む;良寛門、「温海記遊」、  
「幣帯集」「続幣帯集」「虚字註釈」「句中聯語」「国語律呂考」「詩材」1858「北越七奇考」外著多、  
[瓶斎(;号)の字/通称]字;徳卿、通称;相馬
- 餅斎(へいさい・小野) → 正雄(まさお・小野おの/篠屋、商家/歌人) O 4 0 1 5  
米斎(へいさい・黒川) → 惟草(いそう・黒川くろかわ、書家/俳人) B 1 1 0 4  
米斎(へいさい・円山) → 応立(おうりゅう・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 7 2

- 2735 **平左衛門** (平左右衛門へいざえもん・藤本ふじもと) ?-? 江前期江戸の歌舞伎役・作者;1700-08頃活動、1703「小栗鹿目石おぐりかなめい」「源氏六十帖」/04「平安城都定」「移徙十二段」著(合作)、1705「傾城吉長染よしながそめ」治兵衛と合作、08「凱人がいじん十二段」光島七郎左衛門と合作
- 2736 **兵左衛門** (へいざえもん・山田やまだ、名;国楨くにさだ、権左衛門男) 1713-91 79 因幡鳥取藩士;1721家督嗣;1735江戸詰;目付役/小取次役/用人/1735藩主池田重寛傳役兼帯;江戸永詰、儒学修得、藩学建設に当り家老と諸計画策定/1759藩の銀札贋造・行使事件について幕府に陳述、1760諸役御免、論語を愛す;「論語稽義」著、  
[兵左衛門(;通称)の幼名/字/別通称]幼名;亀太郎、字;子宣、別通称;政五郎/幸三郎/左司馬
- 平左衛門(へいざえもん・田中)→ 桐江(とうこう・田中/田、儒者/詩人) D 3 1 7 2  
平左衛門(へいざえもん・立花)→ 重種(しげたね・立花/黒田、藩家老) R 2 1 3 7  
平左衛門(2世へいざえもん・鈴木)→ 半右衛門(はんえもん・津打つうつ、歌舞伎役/作者) H 3 6 2 7  
平左衛門(へいざえもん・宇治田)→ 忠郷(たださと・宇治田うじた、藩士/故実家) P 2 6 5 0  
平左衛門(へいざえもん・舟橋)→ 可勝(かしょう、舟橋ふなばし、俳人) G 1 5 9 6  
平左衛門(へいざえもん・枝吉)→ 南濠(なんごう・枝吉えだよし、藩士/儒者) I 3 2 9 7  
平左衛門(へいざえもん・東泉寺)→ 臥亀(がき・東泉寺、俳人) S 1 5 2 4  
平左衛門(へいざえもん・上坂)→ 嵐枝(らんし・上坂うえさか、藩士/俳人) C 4 8 3 8  
平左衛門(へいざえもん・山梨)→ 治重(はるしげ・山梨やまなし、商家/紀行) G 3 6 3 9  
平左衛門(へいざえもん・築田)→ 秀詮(ひであき・築田/梁田やなだ、藩士) C 3 7 7 6  
平左衛門(へいざえもん・加賀屋)→ 似春(じしゅん・小西、俳人) E 2 1 0 0  
平左衛門(へいざえもん・高砂屋)→ 籠松軒(ちようしょうけん、福田勢三、歌舞伎作者) I 2 8 9 9  
平左衛門(へいざえもん・山下/越智)→ 正勝(まさかつ・越智おち/山下/津田/久保、神職) C 4 0 1 0  
平左衛門(へいざえもん・稲垣)→ 景直(かげなお・稲垣、大庄屋) L 1 5 1 2  
平左衛門(へいざえもん・愛甲)→ 喜春(きしゅん・愛甲あいこう、医者/儒) K 1 6 8 5  
平左衛門(へいざえもん・不破)→ 方好(まさよし・不破ふわ、藩士/記録) L 4 0 1 8  
平左衛門(へいざえもん・渋井)→ 太室(たいしつ・渋井/井、藩士/儒者) 2 6 0 4  
平左衛門(へいざえもん・黒田)→ 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7  
平左衛門(へいざえもん・鍵屋)→ 百樹(ももき・上田/波伯部、国学者) E 4 4 9 7  
平左衛門(へいざえもん・小松)→ 正直(しょうじき・全亭、狂歌・読本作者) J 2 2 4 1  
平左衛門(へいざえもん・大塚)→ 山楽(さんらく・隣柳庵りんりゅうあん、盆景師) E 2 0 7 9  
平左衛門(へいざえもん・赤沢)→ 積翠(せきすい・赤沢あかさね、国学者) N 2 4 9 8  
平左衛門(へいざえもん・大久保)→ 忠泰(ただやす・大久保おおくぼ、幕臣/国学) W 2 6 1 0  
平左衛門(へいざえもん・大阪屋)→ 清憲(きよのり・上杉うえすぎ、商家/歌人) T 1 6 5 9  
平左衛門(へいざえもん・大阪屋)→ 清章(きよふみ・上杉、清憲男/商家/歌) Q 1 6 2 9  
平左衛門(へいざえもん・権藤)→ 種秀(たねひで・権藤ごんどう、国学者) X 2 6 1 2  
平左衛門(へいざえもん・末吉)→ 道一(みちかず・末吉すえよし、国学者) J 4 1 3 3  
平左衛門(へいざえもん・早川)→ 一信(かずのぶ・早川はやかわ、藩士/国学) V 1 5 4 1  
平左衛門(へいざえもん・白木屋)→ 知栄(ともなが・森本もりもと、商家/歌人) W 3 1 7 3  
平左衛門(へいざえもん・結城)→ 国足(くにたる・結城ゆうき、藩士/歌人) E 1 7 5 9  
兵左衛門(へいざえもん・鈴木)→ 重規(しげのり・鈴木/穂積、幕臣/歌人) S 2 1 0 4  
兵左衛門(へいざえもん・伊藤)→ 祐行(すけゆき・伊藤いとう、和算家) H 2 3 3 1  
兵左衛門(へいざえもん・吉田)→ 可吟(かぎん・吉田、俳人) B 1 5 3 1  
兵左衛門(へいざえもん・青山/井口)→ 機山(きざん・井口いぐち、儒者) K 1 6 6 2  
兵左衛門(へいざえもん・伊藤)→ 玄節(げんせつ・伊藤いとう、藩医/儒者) K 1 8 5 5  
兵左衛門(へいざえもん・守田)→ 旁通(まさみち・守田もりた、国学者/歌人) T 4 0 2 2  
兵左衛門(へいざえもん・牛丸)→ 重明(しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9  
兵左衛門(へいざえもん・片山)→ 正喬(まさたか・片山かたやま、国学者) O 4 0 8 7  
兵左衛門(へいざえもん・成田)→ 元長(もとなが・成田なりた、村役/国学) K 4 4 8 8  
兵左衛門(へいざえもん・木田余)→ 群樹(むらき・木田余きだまり/源、藩士/歌) D 4 2 7 3  
兵左衛門(へいざえもん・木田余)→ 秀富(ひでとみ・木田余きだまり/源、藩士/歌) J 3 7 1 8
- 2737 **平作** (へいさく・生熊いぐま) ? - ? 江後期加賀藩の奥村栄実てるざねの家臣、「万松春秋」著

平作(へいさく・岩間) → 宣道(のりみち・岩間いわま、藩士/歌人) F 3 5 8 6  
 平作(へいさく・鼎) → 金城(きんじょう・鼎かなえ、絵師) R 1 6 1 9  
 平作(へいさく・福武) → 光重(みつげ・福武ふたけ、国学者/故実) D 4 1 5 5  
 平作(へいさく・近藤) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0  
 平作(へいさく・唐沢) → 平明(ひらあき・唐沢からさわ/下平、歌人) J 3 7 1 2  
 平作(乗作へいさく・宮田) → 嘯台(しょうだい・宮田/田、酒造業/詩人) K 2 2 7 2  
 平作(へいさく・藤本) → 善右衛門(ぜんえもん・藤本/佐藤、養蚕家) L 2 4 7 8  
 兵作(へいさく・近藤) → 信行(のぶゆき・近藤、藩士/和算家) D 3 5 7 1  
 兵作(へいさく・山本/羽田野) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4  
 兵作(へいさく・出目) → 素久(もとひさ・出目でめ、能面師) D 4 4 9 9  
 兵作堂(へいさくどう) → 亀友(きゆう・永井堂、浮世草子)  
 平砂組(へいさくぐみ;組連) → 平砂組(ひらすなぐみ;組連、雑俳) I 3 7 1 5  
 平三郎(へいさぶろう・田中) → 宗得(むねのり・田中たなか、神道家) C 4 2 2 0  
 平三郎(へいさぶろう・桑岡) → 貞佐(ていさ・桑岡くわおか、俳人) 3 0 0 3  
 平三郎(へいさぶろう・人形屋) → 章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者) G 2 2 5 5  
 平三郎(へいさぶろう・酢屋) → 仁里(じんり・富永/興津、儒者/教育) Q 2 2 0 5  
 平三郎(へいさぶろう・長井) → 利恒(としつね・長井ながい、幕臣/歌人) X 3 1 4 6  
 平三郎(へいさぶろう・鈴木) → 重次(しげつぐ・鈴木、和算家) R 2 1 4 9  
 平三郎(へいさぶろう・毛利) → 重長(しげなが・毛利もうり、幕臣/奉行) a 2 1 7 1  
 平三郎(へいさぶろう・堀) → 麦水(むくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9  
 平三郎(へいさぶろう・清水) → 時良(ときよし・清水しみず、幕臣/弓術) K 3 1 3 2  
 平三郎(へいさぶろう・村瀬) → 秋水(しゅうすい・村瀬むらせ、絵師) X 2 1 7 3  
 平三郎(へいさぶろう・佐藤/膝) → 中陵(ちゅうりょう・佐藤/膝、本草家) G 2 8 9 8  
 平三郎(へいさぶろう・三浦) → 瓶山(へいざん・三浦みうら、藩儒) 2 7 3 9  
 平三郎(へいさぶろう・木下) → 菊潭(きくたん・木下きのした、藩士/儒者) F 1 6 2 1  
 平三郎(へいさぶろう・熊沢) → 鹿野(ろくや・熊沢くまざわ/奥田、藩士/俳) B 5 2 1 6  
 平三郎(へいさぶろう・鳥居) → 清倍(きよばい・2世きよます・鳥居とりい、絵師) D 1 6 6 0  
 平三郎(へいさぶろう・松屋) → 耳鳥斎(にちようさい・松屋、絵師) D 3 3 5 3  
 平三郎(へいさぶろう・志賀/岩崎) → 博秋(ひろあき・岩崎、藩士/和算) F 3 7 4 7  
 平三郎(へいさぶろう・加藤) → 松斎(しょうさい・加藤かとう、藩儒/詩) S 2 2 3 5  
 平三郎(へいさぶろう・池尻) → 善慶(よしちか・池尻いけじり/武田、藩士) L 4 7 5 0  
 平三郎(へいさぶろう・安部) → 信孝(のぶたか・安部/安倍あべ、幕臣、歌) G 3 5 9 4  
 平三郎(へいさぶろう・秋元) → 芳樹(よしき・大橋おおはし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9  
 平三郎(へいさぶろう・北村) → 雅尚(まさひさ・北村きたむら、国学者) P 4 0 3 2  
 平三郎(へいさぶろう・田村) → 清真(きよざね・田村たむら、国学者) U 1 6 5 9  
 平三郎(へいさぶろう・仁科) → 信清(のぶきよ・仁科にしな/佐藤、藩士/歌) J 3 5 4 7  
 平三郎(へいさぶろう・平尾) → 意美(のりよし・平尾ひらお、藩士/和学) J 3 5 8 4  
 平三郎(へいさぶろう・矢富) → 美啓(よしひろ・矢富やとみ、庄屋/歌人) P 4 7 7 3  
 兵三郎(へいさぶろう・佐橋) → 筋翁(せつおう・佐橋さばせ、幕臣/博物家) K 2 4 7 5  
 兵三郎(へいさぶろう・山形) → 良近(よしちか・山形やまがた、国学者) P 4 7 8 1  
 兵三郎(へいさぶろう・酒井) → 履信(りしん・酒井さかい、名主) B 4 9 2 7  
 兵三郎(へいさぶろう・桜井) → 要道(としみち・桜井さくらい、代官/歌人) T 3 1 3 7

- 2738 屏山(へいざん・水足みずたり/修姓;水、名;安直/信好) 1671-1732 殺害 62 熊本藩大坂屋敷の生、  
 儒者:京の浅見綱齋門/のち荻生徂徠に私淑、熊本藩儒、家で賊徒に襲われ没、  
 「航海献酬録」/1718「垂裕堂八景記」画、25「山崎先生行実」、「竜児文集」「史綱」「屏山詩稿」著、  
 [屏山(;)号)の字/通称/別号]字;仲敬、通称;半助、別号;昧斎/漁軒/成章堂、博泉の父
- 2739 瓶山(へいざん・三浦みうら、名;衛貞/衛興) 1725-1795 71 石見or周防の儒者;山県周南門/徂徠学、  
 江戸住:越中富山藩儒/1773藩校広徳館学頭/80御徒頭/近習頭、  
 「釈奠図解」により藩校釈奠規準とす、1743「徂徠先生学則解」51「原学篇」76「閑窓自適」、  
 「芸苑譜」「明七才子尺牘」著、



- [瓶山(；号)の字/通称]字；淳夫、通称；左兵衛/平太夫/平三郎
- 2740 **屏山**(へいざん・市島いちじま、名；泰、元中男)1793-194654 越後新発田の儒者・詩人；梁川星巖門、  
弹琴に長ず；名品収集、「追蠡集」、  
[屏山(；号)の字/通称/別号]字；交通、通称；秀松、別号；追蠡
- 2741 **平山**(へいざん・高知こうち) ? - ? 漢学/翻訳家、  
1829清の金聖歎編纂聖歎外書(せいいたいがいしよ水滸伝(金聖歎批評水滸伝))訳・序
- 2742 **平山**(瓶山へいざん・多々良たたら、名；穆、鳥山とりやま巴ト男)1800-4344 備前児島町麴製造業の生/俳人、  
文政1818-30頃藩士の妻との密通露頭；出奔；以後多々良を名告る、俳諧；大阪の奇淵門、  
京の梅室・世南門/江戸住、「平山入庵記念句集」編、1833「鷗鷺集」/38「一炉集二篇」編、  
1842「続ふかかは」編、「梅のをりはし」「はとの巢」著、追善集；「うつせみ」「あけほの集」外、  
[平山(；号)の通称/別号]通称；島屋又三郎、別号；薇城びじょう/瓶山へいざん/蝶夢軒
- 2743 **平山**(へいざん・中田ながた/なかつ、名；正誠、有則男)1813-5745 江戸生/常陸土浦藩士/儒；佐藤一斎門、  
大久保親春門、詩文、土浦転居；藤森弘庵門、藩主土屋寅直の侍講；江戸小石川藩邸移住、  
大政奉還の時藩論統一に奔走/維新後は塾生指導、「平山詩稿」「逐禽談」「大学章句集疏」著、  
[平山(；号)の字/通称/別号]字；之允、通称；市蔵/小太郎/太郎左衛門/誠之允、  
別号；松菊園/敬斎/寿山
- 平山(へいざん・春田) → 永年(ながとし・春田はるた、具足師/故実) 3 2 1 2
- 2744 **米山**(へいざん・加藤かとう、名；重慎、十助男)1814-8774 筑後久留米藩士；久留米庄島の生、  
儒；安積良斎門/1840藩校明倫堂講官/監察、江戸で富之丞公子(松平直克)の侍読、  
戊申戦では軍監、家塾を開き子弟教育、「米山等将並小稿」著、  
[米山(；号)の字/通称/別号]字；保卿、通称；幾次郎、別号；聴鶯舎
- 2745 **米山**(へいざん・三輪田みわた、名；常貞/清門、清敏男)1821-190888 伊予久米村日尾八幡宮神官家の生、  
書家；王羲之に傾倒、国学；大国隆正門、皇学・漢学に通ず、各地行脚；書と歌を修得、  
神明石・注連石・幟等に揮毫、歌は生涯5万首という、歌集「菜の花」/「三輪田日記」著、  
[身を捨つる藪はあれども心をば捨つる藪なきことの悲しさ]、  
[米山(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；秀雄、字；子謙、通称；実之助/式部/清門、  
別号；得正軒主人/俊得正軒、高房(松山藩士/神職)・元綱(神職)の兄
- 米山(へいざん・米倉) → 長昌(ながまさ・米倉よねくら/源、幕臣/歌) K 3 2 1 3
- 米山(へいざん・若狭屋) → 五鹿(ごろく・若狭屋、俳人) P 1 9 3 9
- 米山(へいざん・西田) → 耕耘(こうりん・西田、医者/茶人) H 1 9 4 7
- 2746 **米山人**(へいざんじん・岡田おかだ、名；国/字；士彦、通称；米屋よや彦兵衛)1744-182077 出身地には諸説、  
播磨神東郡剣坂村の庄屋安積喜平治の寵愛；同家に寓居；読書・修学；郡代の前で講義、  
喜平治の援助で大阪で米穀商、妻；安積家の乳母、独学で経学を修め中国文人画を修得、  
大坂を代表する文人画家となる、伊勢の藤堂高朗の招聘で伊勢藩に異例の出仕；  
大坂の藤堂藩蔵屋敷内に住；画室[正帆]を設け木村巽斎・頼山陽・春琴ら文人と交遊；  
「兼葭堂けんかどう日記」に逸話、米穀商は継続；65歳頃致仕；息子半江が継嗣、  
大坂の別宅に隠居、1810安積家障壁画を息子半江と合作、  
「春景山水画」「幽客横琴図」「紫霊蒼竜図」「竹林七賢図」など画多数、典籍・書画も蒐集、  
[米山人(；画号)の別号] 米翁、岡田半江の父(養子説もある)
- 平子(へいし) → 平子(たいらけい、内侍/後撰歌人) C 2 6 2 7
- 並子(へいし・橋村) → 並子(なみこ・橋村はむら/度会、歌人/画) O 3 2 3 4
- 並枝(へいし・佐々木) → 向陽(こうよう・佐々木/直木、儒者) L 1 9 5 0
- 並次(へいし・可部) → 赤瀬(あかに・可部かべ、医/国学者) G 1 0 4 0
- 平次(へいし・梶原) → 景高(かげたか・梶原、武将/歌) I 1 5 1 0
- 平次(へいし・櫛田) → 琴山(きんざん・櫛田くしだ、儒者) H 1 6 8 9
- 平次(へいし・恩田) → 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4
- 平次(へいし・中島) → 通軒(つうけん・中島なかじま、儒者) 2 9 2 6
- 平次(へいし・森田) → 良見(良美よしみ・森田、藩士/国学者) H 4 7 2 9
- 平次(へいし・浅田) → 保腆(やすよし・浅田あさだ、藩士/歌人) F 4 5 1 3

- 平次(へいじ・山口) → 友之(ともゆき・山口やまぐち/源、国学/歌) W 3 1 8 3  
 平次(へいじ・原) → 隆(たかし・原はら、藩士/剣術家) Z 2 6 0 9  
 平次(へいじ・田谷) → 寿平次(すへい・田谷たや、国学/歌人) I 2 3 7 1  
 平治(へいじ・妻屋) → 秀員(ひでかず・妻屋/妻谷つまや、歌人) C 3 7 9 1  
 平治(へいじ・伊勢) → 貞良(さだよし・伊勢いせ/原田、藩陪臣/故実) N 2 0 8 1  
 平治(へいじ・赤穂屋) → 博篤(ひろあつ・水森みずもり、商家/国学) L 3 7 3 8  
 兵二(へいじ・中川) → 秀実(ひでざね・中川なかがわ、国学/神職) K 3 7 3 6  
 兵次(へいじ・渡辺) → 謙堂(けんどう・渡辺わたなべ、和算/測量家) L 1 8 7 3  
 兵治(へいじ・国分) → 胤貞(たねさだ・国分こくぶん、神職/国学) X 2 6 1 1  
 兵治(へいじ・齋藤) → 盛喜(もりよし・齋藤さいとう、湯屋/歌人) K 4 4 0 6  
 丙次(へいじ・湯川) → 東軒(とうけん・湯川/湯河、儒者/詩) D 3 1 3 3
- 2747 **米史**(まいし・隠岐おき) 1704 - 1747<sup>44</sup> 京の俳人:四時堂其諺門、1745「歳旦集」編、  
 [米史(;)号]の別号]如牛/阜澄/卓澄/四時堂2世  
 米子(まいし) → 米子(よねこ)  
 平治右衛門(へいじえもん・豊島) → 才尾(さいび・椎本いのもと・豊島、俳人) B 2 0 0 7  
 平次右衛門(へいじえもん・高沢) → 忠順(ただより・高沢たかざわ、藩士/記録) R 2 6 4 2  
 平次右衛門(へいじえもん・東海林) → 式麿(しきまろ・喜多川、絵師) Q 2 1 1 1  
 平次右衛門(へいじえもん・有沢) → 盛貞(もりさだ・有沢、藩士/軍学者) F 4 4 4 0  
 平次右衛門(へいじえもん・小川) → 義局(よしちか・加納かのう、藩士/歌人) M 4 7 1 4
- 2748 **平次左衛門**(へいじさえもん;通称・加沢かざわ) 1628-1692<sup>65</sup> 上野沼田藩士/藩主真田信利の右筆、  
 1681信利改易の際藩務整理、利根郡下川田村に隠棲、「加沢記」「加沢平次左衛門覚書」著  
 平次左衛門(へいじさえもん・戸張) → 佳孝(よしたか・無事庵/戸張、名主/茶人) E 4 7 1 3
- 2749 **平七**(へいしち;通称・高洲たかす、名;就忠、神村親種男) 1724-93<sup>70</sup> 母方の長門萩藩士高洲盛韶の養嗣、  
 萩藩士;1730家督継嗣/藩主毛利重就に重用;裏判役兼記録所役;藩財政の管理、  
 1761検地担当;財政立直しに尽力/66幕命で木曾川修理/74江戸桜田・新橋両藩邸造営、  
 周防三田尻・小郡の開作、1778病のため辞職、1779「御国政御再興之廉」著
- 2750 **平七**(へいしち・八民やたみ/竹田/筑田、大坂屋太郎兵衛男?)?-? 大阪の浄瑠璃作者:  
 竹田千前軒[初世出雲]門/竹本座正本作者付竹田平七名で初出、のち筑田・八民と改姓、  
 竹本座・豊竹座で近松半二らと合作、1766「本朝廿四孝」68「傾城阿波の鳴門」、  
 1770「利生の池水」71「嗚呼忠臣楠氏籬」72「艶容女舞衣」、77「日本歌竹取物語」外著多数、  
 [八民平七(;)号]の通称/別号]通称;平太郎、別号;武田平七/筑田平七
- 2751 **平七**(へいしち・鶴殿うどの、名;広生、広修男) 1774-1854<sup>81</sup> 常陸水戸藩士;1798出仕/用人/39家老、  
 1844藩主徳川斉昭の隠居のとき免職;45致仕、「印篆集略」、1824「鎌倉古瓦譜」著、  
 [平七(;)通称]の字/別通称/号]字;子翁しきゅう、別通称;熊太郎/長十郎、号;清虚  
 平七(へいしち・菱屋) → 重房(しげふさ・吉田、商人/紀行文) C 2 1 9 5  
 平七(へいしち・小松屋) → 盛胤(もりたね・関せき、薬種業/史家) F 4 4 6 5  
 平七(へいしち・関谷) → 為則(ためり・関谷せきや、和算家) S 2 6 6 7  
 平七(へいしち・梶山) → 主水(もんど・梶山かじやま、藩家老/和算) I 4 4 3 5  
 平七(へいしち・小川) → 墨春亭梅麿(ぼくしゅんていいうめまろ、絵師/戯作) D 3 9 4 4  
 兵七(へいしち→ひょうしち・槌井) → 金八(2世きんぱち・増山、歌舞伎作者) R 1 6 6 5  
 平七郎(へいしちろう・小林) → 元有(もとあり・小林こばやし/林、国学者) J 4 4 9 5  
 平七郎(へいしちろう・釜屋) → 緑樹園(りよくじゅえん・小林、商家/狂歌) J 4 9 7 7  
 平七郎(へいしちろう・外山) → 政恒(まさつね・外山とやま、歌人) E 4 0 1 5  
 平七郎(へいしちろう・野田) → 広足(ひろたり・野田のだ/菅原/大塚、里正/国学) J 3 7 0 2  
 平七郎(へいしちろう・関/小松屋) → 盛胤(もりたね・関せき、薬種業/史家) F 4 4 6 5  
 平七郎(へいしちろう・山本) → 義信(よしのぶ・山本やまもと、絵師) F 4 7 6 0  
 平七郎(へいしちろう・辻) → 光賢(みつたか・辻つじ、神職/歌人) J 4 1 7 7  
 平七郎(へいしちろう・三栖屋) → 宗正(むねまさ・那須なす、国学/歌人) E 4 2 0 7  
 平次兵衛(へいじべえ・古川) → 古松軒(こしょうけん・古河/古川、医/地誌) 1 9 3 3  
 平次兵衛(へいじべえ・矢野) → 正胤(まさたね・矢野やの、藩士/国学/歌) T 4 0 3 1

平舎(へいしゃ) → 斑象(2世はんそう・春野亭、俳人) I 3 6 3 3  
 並樹(へいじゆ/つらき・村田) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1  
 並樹(へいじゆ/つらき・村田) → 嘉言(よしこと・村田/平、春門男/国学者/絵師) D 4 7 3 0  
 並樹(へいじゆ/つらき・村田) → 春野(はるの・村田、春門男/国学者) G 3 6 6 8  
 並樹(へいじゆ・辛島) → 並樹(なみき・辛島からしま、藩士/神職) L 3 2 6 6  
 米守庵(べいしゆあん) → 甘令(かんれい・沢さわ、俳人) I 1 5 2 7

2702 平洲(へいしゆう・細井ほそい/本姓;紀、名;徳民、細井甚十郎正長男) 1728-1801 74 尾張知多郡平島農家、  
 学問;尾張加家村観音寺住職義寛門/1743(16歳)上京/歌;有栖川宮職仁親王門、  
 儒;1744名古屋の中西淡淵門、45長崎遊学/47帰郷/51江戸の淡淵の叢桂社で教授、  
 嚶鳴舎開塾、1756伊予西条藩主松平頼淳の師/64羽前米沢藩世子上杉鷹山の師、  
 1771米沢藩儒/76藩校興讓館の学規学則制定に尽力/80尾張藩儒/83藩校明倫堂督学、  
 1796米沢藩主上杉治広の招聘で米沢滞在/99隠居、詩に秀づ、「感懐詩」「嚶鳴館詩集」、  
 「細井平洲集」「つらつらふみ」「建学大意」「細井平洲尺牘」、逸話「小語」外著多数、  
 「嚶鳴館遺草」、

[平洲(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;外衛、字;世馨、通称;甚三郎、  
 別号;如来山人/翁坡叟きゆうはそう/嚶鳴館おうかいかん、法号;秀学院、中台の養父

平洲(へいしゆう・朝岡) → 興禎(さきさだ・朝岡、絵師) H 2 0 1 7  
 平洲(へいしゆう・朝岡) → 興禎(さきさだ・朝岡/狩野、幕臣/絵師) H 2 0 1 7  
 平章(へいしゆう・百川) → 玉川(ぎよくせん・百川ももかわ、藩士/儒者) I 1 6 8 8  
 平什(へいしゆう・巻/奇々庵) → 紀逸(3世きいつ・是非庵、俳人) 1 6 7 3  
 餅十(へいしゆう・鳥居) → 清経(きよつね・鳥居とりい、絵師) D 1 6 3 7  
 米洲(べいしゆう・豊田) → 潔常(きよつね・豊田とよた、国学者) U 1 6 8 8

B2743 閉集堂(へいしゆうどう;組連) ? - ? 江戸四谷の雑俳連;取次、

取次;1770「川柳評万句合」;

取次例;[こだわると塗りたつて来る下がり取り](70万句合/前句おこり社こそすれ々々)、  
 (支払いを洩ると白粉べた塗りの借金取が来る)

平十郎(へいじゆうろう・近藤/中根) → 正盛(政盛まさもり・中根/近藤、幕臣) H 4 0 9 9  
 平十郎(へいじゆうろう・酔屋) → 国雄(くにお・橋たちばな、絵師) C 1 7 6 4  
 平十郎(へいじゆうろう・榊原) → 香庵(こうあん・榊原さかきばら、藩士/記録) H 1 9 1 8  
 平十郎(へいじゆうろう・中根) → 正朝(まさとも・中根なかね、幕臣/神道/歌) U 4 0 1 7  
 平十郎(へいじゆうろう・富永) → 伝兵衛(でんべえ・富永、舞伎作者) E 3 0 2 1  
 平十郎(へいじゆうろう・高松) → 信行(のぶゆき・高松たかまつ、剣術家/国学) I 3 5 9 7  
 平十郎(へいじゆうろう・鈴木) → 重孝(しげたか・鈴木、商業/郷土史家) R 2 1 2 6  
 平十郎(へいじゆうろう・横山) → 政礼(まさのり・横山/山、藩士/文筆家) G 4 0 0 3  
 平十郎(へいじゆうろう・長塩) → 平六(へいろく・長塩ながしお、藩士/歌) 2 7 8 4  
 平十郎(へいじゆうろう・小松) → 有隣(ありちか・小松こまつ、名主/歌人) H 1 0 5 0  
 平十郎(へいじゆうろう・児島) → 天泐(てんろく・児島こじま、儒者/詩文) E 3 0 6 4  
 平十郎(へいじゆうろう・高田) → 清貞(きよさだ・高田たかた、藩士/国学) U 1 6 6 3  
 平十郎(へいじゆうろう・藤井/伊藤) → 相嘉(すけよし・茜部あかなべ/藤原/伊藤/藤井、藩士/国学) D 2 3 7 5  
 平十郎(へいじゆうろう・吉野) → 義巻(よしまる・吉野よしの、名主/歌/国学) Q 4 7 0 9  
 兵十郎(へいじゆうろう・土屋) → 邦敬(くにたか・土屋つちや、農業/庄屋) E 1 7 3 5

B2752 瓶城(へいじゆう・近藤こんどう、安藤甚助2男) 1832-1901 70 母;坂田世以子、三河額田郡岡崎の商家の生、  
 紙鳶いかぼりの風箏うなりを製造販売/書;岡崎西照寺住職門者/儒;藩士平松東石・荻須孝哉門、  
 経史;1852(嘉永5)医者蜂須賀東邸門、歌;藩士都築大成門、のち儒;曾我耐軒門、  
 1857(安政4/26歳)額田郡米河内村近藤松石の養女冬子(近藤正良女)の婿、  
 1866岡崎藩儒に抜擢、勤王を主唱;版籍奉還の活動;上京し九条家や諸藩情勢を藩に報告、  
 藩の公用人助役;皇室と藩との接近を図り維新にも藩は安泰、その功で大隊番士、  
 藩校允文館学監、1870義官;反発多く士籍剥奪され退職/1872東京住;「日本史記」著、  
 1874司法省囑託の「新律綱領改訂律令」注釈、75代言弁護事務所開設、継妻;山田菊子、  
 [群書類従]未収録の史籍刊行を企画;1878深川自邸内に養子圭造と近藤活版所を設立;

1881~85「史籍集覧」編纂出版、

[瓶城(；号)の名/通称/別号]名；宗元むねもと、通称；元三郎、別号；省齋

- 平丞(へいじょう・田中) → 式如(のぶゆき・田中/松浦、神道家) D 3 5 6 3  
平丞(へいじょう・志村) → 識行(のりゆき・志村じむら、藩士/文筆家) G 3 5 1 2  
平穰(へいじょう・築山) → 築山(らくざん・築山つきやま、絵師) B 4 8 1 5  
瓶城(へいじょう・新宮) → 凉介(りょうかい・新宮しんぐう/松山、医者) G 4 9 8 1  
秉常(へいじょう・西) → 秉常(もちつぐ・西にし、陪臣/歌人) K 4 4 9 0  
米升(べいじょう・高島屋) → 小団次(4世こだんじ・市川、歌舞伎役者) 1 9 3 5  
米松(べいじょう・下村) → 春花(しゅんか・下村しもむら、俳人) J 2 1 2 7  
米城(べいじょう・成瀬) → 石痴(せきち・成瀬なるせ/横瀬、彫刻家) K 2 4 3 8  
B2749 平四郎(へいしろう) 1698 - ? 1739(42歳)存 遠江新居あらいの船員；水主/21年間漂流、  
詳細参照 → 甚八(じんぱち、楫取/漂流) S 2 2 4 0  
2752 平四郎(へいしろう・松田まつだ) 1764-1834 71 加賀金沢の筆墨商/陶工；青木木米もくべい門、  
春日山焼の肝煎(亀田商齋と)、「陶器総録」著、  
[平四郎(；通称)の字/別通称/号]字；元寧、別通称；平八、号；馬宋/帝慶齋  
2753 兵四郎(へいしろう・高山たかやま、名；光重)?-? 曆算家；小野栄重門、1814山名八幡宮に奉額、  
「天文曆数学被仰付之留」著  
2754 平四郎(へいしろう・村瀬むらせ、名；重候、虎丘男)?-1840 幕臣；小納戸/使番/火事場見廻/1832目付、  
1837小普請奉行/39槍奉行、長門守、1836「御台所人別帳」編  
平四郎(へいしろう・真壁まかべ) → 法身(法心ほっしん、臨濟僧) C 3 9 6 7  
平四郎(へいしろう・伊勢) → 貞時(さだとき・伊勢/平、故実家) I 2 0 7 6  
平四郎(へいしろう・関せき) → 伝笑(でんしょう・関亭かんでい、合巻/読本) D 3 0 8 3  
平四郎(へいしろう・山梨) → 治重(はるしげ・山梨やまなし、商家/紀行) G 3 6 3 9  
平四郎(へいしろう・村田) → 春道(はるみち・村田むらた、商人/国学/歌) 3 6 3 7  
平四郎(へいしろう・村田) → 春海(はるみ・村田、春道男/商/国/歌) 3 6 3 6  
平四郎(へいしろう・八田屋/松井) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4  
平四郎(へいしろう・宮崎) → 畏齋(いさい・宮崎みやざき、幕臣/儒者) F 1 1 4 6  
平四郎(へいしろう・唐沢) → 徳卿(のりあき・唐沢からさわ、国学/僧) H 3 5 9 7  
平四郎(へいしろう・梶原) → 景紹(かげつぐ・梶原かじら、郷土史家) E 1 5 2 2  
平四郎(へいしろう・越智/松平) → 清武(きよたけ・松平/越智、藩主) P 1 6 8 2  
平四郎(へいしろう・川喜田) → 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0  
平四郎(へいしろう・藤森) → 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人) G 3 8 4 3  
平四郎(へいしろう・河路) → 光福(みつとみ・河路かわじ、商家/歌人) I 4 1 7 3  
平四郎(へいしろう・河路/紙屋) → 光応(みつまさ・河路、光福男/商家/歌) I 4 1 7 4  
平四郎(へいしろう・増田屋) → 貞栄(さだひで・吉井よし、商家/国学者) P 2 0 7 9  
平四郎(へいしろう・横井) → 小楠(しょうなん・横井よこい、藩士/思想家) B 2 2 0 5  
兵四郎(へいしろう・蜷川) → 親和(ちかかず・蜷川にながわ、書家；奥右筆) 2 8 6 8  
兵四郎(へいしろう・横山) → 正守(まさもり・横山よこやま、幕臣/歌) L 4 0 6 1  
兵四郎(へいしろう・中条) → 備資(まさすけ・中条ちゅうじょう、藩史編纂) C 4 0 9 4  
兵四郎(へいしろう・鯨岡) → 重胤(しげたね・鯨岡くじらおか、詩人) R 2 1 3 8  
2755 平次郎(へいじろう・岡部おかべ、名；正懋/号；四溟)?-? 幕臣、儒学；井上金峨門、詩/狂歌を嗜む、  
1772「四溟陳人詩集」著  
2756 平次郎(へいじろう・平井ひらい、号；文庫翁) 1774-1843 70 伊豆賀茂郡下田町吏；町書役年寄、  
1843「下田年中行事」編  
2757 平次郎(へいじろう・竹原たけはら)?-? 江後期洋学者；桂川国幹門、幕府開成所化学教授出役、  
1867-「化学入門」訳  
平次郎(へいじろう) → 唯円(ゆいえん；法諱、真宗僧/親鸞門) 4 6 3 2  
平次郎(へいじろう・佐竹) → 義隆(よしたか・佐竹さたけ/岩城、藩主) D 4 7 9 4  
平次郎(へいじろう・上坂こうさか/中沢) → 三休子(さんきゅうし・梅花軒、藩士/随筆) M 2 0 0 2  
平次郎(へいじろう・上月) → 慈雲(じうん；字・飲光おんこう、真言僧) 2 1 0 2

平次郎(平二郎へいじろう・向井)→ 去来(きょらい・向井むかい、俳人) 1 6 5 4  
 平次郎(へいじろう・葛巻/大野木)→ 克明(かつあきら・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 2 3  
 平次郎(へいじろう・柳井)→ 亀山(きざん・柳井、藩士/儒者/詩) K 1 6 5 9  
 平次郎(へいじろう・村瀬)→ 藤城(とうじょう・村瀬むらせ、大庄屋/儒者) F 3 1 3 3  
 平次郎(へいじろう・柴野)→ 碧海(へきかい・柴野しばの、柴、儒者/詩文) 2 7 8 7  
 平次郎(へいじろう・遠藤/猪狩)→ 香村(こうそん・遠藤・猪狩いかり、絵師/詩) K 1 9 4 1  
 平次郎(へいじろう・佐久間)→ 義明(よしあき・佐久間さくま/平清水、大庄屋/国学) M 4 7 9 5  
 平次郎(へいじろう・荒尾)→ 成章(しげあき・荒尾あらお、幕臣/奉行職) Q 2 1 4 8  
 平次郎(へいじろう・荒尾)→ 成允(しげまさ・荒尾、成章男/幕臣/外交) S 2 1 6 7  
 平次郎(へいじろう・伊勢屋)→ 標軒(ちよけん・中尾なかお、商家/鑑定) K 2 8 3 6  
 平次郎(へいじろう・川喜田)→ 邦矩(くにのり・川喜田かわきた/長谷川、商家/国学) E 1 7 1 1  
 平次郎(へいじろう・栗栖)→ 天山(てんざん・栗栖くるす、藩士/漢学者) D 3 0 6 1  
 平次郎(へいじろう・久野)→ 信親(のぶちか・久野くの、国学者) I 3 5 2 4  
 平次郎(へいじろう・田村)→ 清真(きよざね・田村たむら、国学者) U 1 6 5 9  
 平次郎(へいじろう・野瀬)→ 道任(みちとう・野瀬のせ、地役人/国学) K 4 1 0 5  
 平治郎(へいじろう・松岡)→ 辰方(ときかた・松岡/丹比たじひ/酒井、故実家) J 3 1 0 4  
 平二郎(へいじろう・岡部)→ 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6  
 兵次郎(へいじろう・板倉)→ 震斎(しんさい・板倉いたくら、藩士/儒者) O 2 2 4 3  
 兵次郎(へいじろう・高瀬屋)→ 陸史(りくし・南坡菴、醸造業/俳人) 4 9 7 4  
 兵治郎(へいじろう・福住)→ 貞陳(さだのぶ・福住ふくずみ、商家/歌人) P 2 0 2 4

2758 平心(へいしん;道号・處齊しよせい;法諱、諡号;覚源禅師、俗姓;那路) 1287-1369<sup>83</sup> 肥前小味庄の人、  
 生年の父に死別/1295(9歳)臨濟宗小味寺林叟徳瓊門;出家/さらに比叡山で天台を修学、  
 鎌倉寿福寺住持の師林叟に従う/高峰頭日・竹翁に参禅後林叟の法嗣、のち清拙正澄門;  
 道号[平心]を授与される、建武(1334-38)頃山内家に招聘され尾張水野定光寺開山、  
 美濃長蔵寺・池田禅蔵寺など開山、長蔵寺に没;1378禅師号を贈、「覚源禅師語録」著

平臣(へいしん→ひらおみ・松岡)→ 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0  
 平審(へいしん・波多野)→ 為興(ためおき・波多野はたの、神職/国学) Y 2 6 9 6  
 屏塵舎(へいじんしゃ)→ 玄仙(げんせん・田村/津田、医者) K 1 8 6 2  
 秉心堂(へいしんどう)→ 履視(りし・向井むかい、藩士/俳人) B 4 9 1 5  
 萍水散人(へいすいさんじん)→ 兼勝(かねかつ・上坂かみさか、書肆) F 1 5 6 7  
 并輔(並輔へいすけ・石津)→ 亮澄(すけずみ・石津いしづ、国学/歌人) C 2 3 2 6  
 兵介(へいすけ・賀島)→ 兵介(ひょうすけ・賀島、藩士/建議;配流) F 3 7 2 8  
 兵介(へいすけ・宇野)→ 士朗(しろう・宇野うの/宇、儒者) D 2 2 2 8  
 兵介(へいすけ・安部)→ 健臣(たけおみ・安部あべ、藩士/国学) U 2 6 9 9  
 兵助(へいすけ・小西/山中)→ 為綱(ためつな・山中/小西、藩士/地誌) S 2 6 5 4  
 兵助(へいすけ・宇都宮)→ 慎斎(しんさい・宇都宮、神職/詩歌) O 2 2 4 0  
 兵助(へいすけ・勝)→ 兵助(ひょうすけ・勝かつ、歌舞伎作者) F 3 7 2 9  
 兵助(へいすけ・佐藤)→ 麟趾(りんし・佐藤/松本、儒者) K 4 9 3 9  
 兵助(へいすけ・摂待)→ 聿修(いっしゅう・摂待せつたい、俳人) H 1 1 3 2  
 兵助(へいすけ・田中)→ 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 兵助(へいすけ・三谷)→ 葵陵(きりょう・三谷みたに、藩士/儒者) Q 1 6 5 4  
 兵助(へいすけ・米屋)→ 香園(こうえん・加藤、書肆/儒) H 1 9 6 9  
 兵助(へいすけ・北村)→ 考保(としやす・北村きたむら、商家/歌人) U 3 1 9 9  
 兵助(へいすけ・柏屋)→ 昭方(あきかた・山口やまぐち、書肆/国学) I 1 0 6 5  
 兵助(へいすけ・波多野/広沢)→ 眞臣(まことみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記) E 2 0 8 6  
 兵助(へいすけ・長沢)→ 元緒(もとお・長沢ながさわ/井上、商家/歌) K 4 4 8 6  
 平允(へいすけ・加須屋)→ 武義(たけよし・加須屋かすや/岩越、藩士/歌) W 2 6 3 9  
 平助(へいすけ・曾我)→ 助乗(すけのり・曾我/平、武将/故実家) G 2 3 8 9  
 平助(へいすけ・和田)→ 正勝(まさかつ・和田、藩士/居合・柔術) C 4 0 0 4  
 平助(へいすけ・柳川)→ 震沢(しんたく・柳川やながわ、儒者) 2 2 5 7

- 平助(并輔へいすけ・石津)→ 亮澄(すげずみ・石津、国学/歌) C 2 3 2 6  
平助(へいすけ・石津)→ 聴雨軒主人(ちょううけんしゅじん、亮澄すげずみと同一?) H 2 8 2 8  
平助(平介/平輔へいすけ・藤江)→ 熊陽((ゆうよう・藤江、藩儒/地誌) D 4 6 9 9  
平助(へいすけ・塩屋しおのや/高橋)→ 徳恒(とくこう・高橋、書肆/俳人) K 3 1 6 9  
平助(へいすけ・木村) → 南冥(なんめい・木村、心学者) J 3 2 5 6  
平助(へいすけ・榎本) → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人) 1 6 0 5  
平助(へいすけ・三笠屋) → 土方(しほう・六呂堂初世、商家/俳人) H 2 1 9 6  
平助(へいすけ・小川) → 破笠(はりゅう・小川、蒔絵象眼/俳人) F 3 6 8 4  
平助(へいすけ・中田) → 祭堂(さんどう・中田/藤、与力/儒者) M 2 0 6 6  
平助(へいすけ・藤屋) → 蓼太(りょうた・大島/吉川、縫物師/俳人) 4 9 2 0  
平助(5世へいすけ・小堺屋)→ 如毛(じょうもう・岡崎おかざき、酒造業/俳人) M 2 2 8 5  
平助(へいすけ) → 順四軒(じゅんしけん、浄瑠璃太夫) J 2 1 8 1  
平助(平介へいすけ) → 白徳斎(はくとくさい・4世竹田近江/浄瑠璃座本) D 3 6 7 5  
平助(へいすけ・谷口) → 安宅(あたか・谷口たにくち、藩士/和算) E 1 0 5 1  
平助(へいすけ・石川) → 一夢(初世いちむ・石川、講釈師/合卷) C 1 1 0 7  
平助(へいすけ・良野) → 華陰(かいはん・良野よしの/良/新名、儒者) E 1 5 4 8  
平助(へいすけ・岩下) → 草司(そうじ・岩下いわした、商家/俳人) H 2 5 6 3  
平助(へいすけ・村瀬) → 藤城(とうじょう・村瀬むらせ、大庄屋/儒者) F 3 1 3 3  
平助(へいすけ・永田) → 正美(せいび・豊島とよしま、和算・天文家) J 2 4 4 6  
平助(へいすけ・蔦屋) → 希言(きげん・岩下いわした、薬種商/俳人) B 1 6 0 9  
平助(へいすけ・工藤) → 球卿(きゅうけい・工藤どう/長井、藩儒/医者) M 1 6 4 5  
平助(へいすけ・梶野) → 良材(よしき・梶野かじの/久隅、幕臣/奉行) D 4 7 0 7  
平助(へいすけ・井上) → 紅映(こうえい・井上、商家/俳人) H 1 9 5 6  
平助(兵助へいすけ・三分一所/渡辺/長江)→ 景明(かげあき・三分一所さんぶいっしょ、儒者) K 1 5 6 6  
平助(平介へいすけ・杉原)→ 心斎(しんさい・杉原すぎはら、幕府儒官) O 2 2 5 4  
平助(へいすけ・入江) → 珍(うず・入江たいりえ、国学者) E 1 2 5 4  
平介(へいすけ・梶原) → 景毅(かげよし・梶原かじわら、藩士/歌) L 1 5 5 1  
平介(へいすけ・磯谷) → 久英(ひさひで・磯谷いそがい、藩士/兵法家) B 3 7 8 3  
平甫(へいすけ・高津) → 溜川(しせん・高津/佐藤、藩儒/従軍記録) E 2 1 4 3  
平甫(平助へいすけ・片岡)→ 如圭(じょけい・片岡かたおか、易学者) C 2 2 3 7  
平輔(へいすけ・青木) → 千枝(ちえだ・青木あおき、藩士/国学者) 2 8 4 5  
平祐(へいすけ・赤木) → 晋和(しんわ・赤木あかぎ、染織上絵業/俳人) Q 2 2 2 5
- 2759 平生三里季保(へいぜいのさんりすえやす、本名;松下まつした閑悦)?? 江戸下谷長者町の狂歌作者;坊主衆、1785「徳和歌後万載集」3首/「狂歌才蔵集」2首(252/269)入、  
[船夕立; 夕立の雲もつき地はまづはれて篠をつく田にかゝる親船](後万載;180)  
(雲も尽きと築地・篠突く雨と佃の掛詞)
- 2760 平城天皇(へいぜいてんのう、名;小殿/安殿あて、桓武天皇第1皇子)774-824<sup>51</sup> 母;良継女乙牟漏おとむろ、806-9在位/薬子くすこの変後;810出家、詩歌:凌雲/経国集入、歌人;通称;奈良の帝;  
古今集3首(;古今90;[ならのみかど]も平城天皇か)、続後拾遺1首、  
[号]日本根子天排国高彦やまとねこあめのおしくにたかひこ  
兵性堂(へいせいどう) → 莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0  
平石(へいせき・大鳥居) → 信臣(のぶおみ・大鳥居おおとりい/真木、神職) H 3 5 7 3  
屏石(へいせき・井上) → 眞澄(ますみ・井上いづえ、神職/国学) N 4 0 2 9  
米積(へいせき・高島) → 米積(よねかず・高島たかばたけ、商家/国学) N 4 7 7 3
- 2761 平泉(へいせん・大槻おおつき、名;清準)1773-1850<sup>78</sup> 陸前仙台の儒者;藩儒志村東嶼門/のち昌平黌入、紫野栗山・古賀精里・尾藤二洲門、1810仙台藩儒/藩校養賢堂四代学頭に就任:学制改革、1836「韻学提凡」45「平泉詩抄」、「平泉文稿」「鶯鳴集」「蛤吠集」「鯨志稿」「経世体要」、  
「崇孟新書」「漫遊秘録」「渾沌分判説」「病間詩紀」「大槻平泉詩書」「平泉著書序目」外著多数、  
[平泉(;号)の字/通称/別号]/字;子繩、通称;民治、別号;繩翁、清臣の弟/習斎の父  
篋前(へいぜん・山田) → 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) E 1 3 2 7

- 平叟(へいそう・藪) → 鶴堂(かくどう・藪やぶ、儒者/詩) K 1 5 2 9  
 弊帚(へいそう・栗山) → 潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業) 2 4 3 7  
 2762 平蔵(へいぞう・多羅尾たらお、尼崎藩士下川元全男)?-? 契沖弟、多羅尾家の養子/伊勢亀山住、  
 江前期文筆家:「秘要集」著  
 2763 平蔵(へいぞう;通称・飯島いじま、号;雅朝)?-? 江中期宝暦1751-64頃上州多野郡小野村の郷土史家、  
 「上野国志」著  
 2764 兵蔵(へいぞう/ひょうぞう・寺田てらだ)?-? 江中期1751-72頃大阪の浄瑠璃・歌舞伎作者:  
 近松半二の助作者、酒樓の主人説あり、1754「赤坂もの語」/55「通神曲輪日記」、  
 1768「傾城阿波の鳴門」70「夏衣裳雁染」71「桜御殿五十三駅」72「躰方武士鑑」外著多数  
 2765 平蔵(へいぞう・長谷川はせがわ、宣以のぶため) 1745-95 51 旗本/幕臣;1786火付盗賊改加役:世評高い、  
 1790人足寄場を創設、水野為長「よしの冊子」逸話入  
 2766 平三(へいぞう・山田やまだ、墨河)?-? 江中期歌舞伎作者:1771江戸市村座作者に初出、  
 以後江戸諸座で金井三笑・初世増山金八らと合作/1781頃まで消息がある、  
 1171「梅花嗣鉢木」「和田酒宴納三組」/72「江戸容儀曳綱坂」75「花相撲源氏張胆」外著多数  
 平三(へいぞう・梶原) → 景時(かげとき・梶原かじら、武将/連歌) B 1 5 8 8  
 平三(へいぞう・長尾/上杉) → 謙信(けんしん・上杉、武将/歌人) C 1 8 3 5  
 平三(へいぞう・坂口) → 坂阿(はんな、坂口さかかくち、早歌) I 3 6 8 3  
 平三(へいぞう・藪) → 鶴堂(かくどう・藪やぶ、儒者/詩) K 1 5 2 9  
 平三(へいぞう・木村/狩野) → 山楽(さんらく・狩野かのう、京狩野家祖) 2 0 5 9  
 平三(へいぞう・稲山) → 行教(ゆきのり・稲山いなやま、国学者) F 4 6 2 9  
 平三(へいぞう・橋本) → 政宣(まさのぶ・橋本はしもと/藤原、国学者) R 4 0 7 5  
 平造(へいぞう・本居) → 豊穎(とよかひ・本居もとおり、藩士/国学者) R 3 1 0 8  
 平造(へいぞう・林) → 通幸(みちゆき・林はやし、子平甥/文筆家) C 4 1 7 6  
 平蔵(へいぞう・田村/佐竹) → 雪村(せつそん:道号・周継:法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3  
 平蔵(へいぞう・木下) → 順庵(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育) 2 1 5 4  
 平蔵(へいぞう[;代々]・鳴見) → 武賢(たけかた・鳴見なるみ/鳴海、銭座8代) O 2 6 3 3  
 平蔵(へいぞう・伊勢) → 貞丈(さだたけ/ていじょう・伊勢いせ、故実家) B 2 0 9 5  
 平蔵(へいぞう・結城) → 助宜(じよぎ・結城ゆうき、幕府家士/俳人) C 2 2 2 8  
 平蔵(へいぞう・正村/吉田) → 正直(まさなお・吉田/正村、神道家) F 4 0 0 2  
 平蔵(へいぞう・伊藤) → 竹里(ちくり・伊藤いとう、儒者) D 2 8 8 7  
 平蔵(へいぞう・大沢) → 貞雄(さだお・大沢おおさわ、藩儒・国学) H 2 0 7 9  
 平蔵(へいぞう・津軽) → 信政(のぶまさ・津軽、藩主/兵学/諸芸) D 3 5 2 9  
 平蔵(へいぞう・村田) → 箕山(きざん・村田むらた、儒/詩歌/俳) 1 6 1 4  
 平蔵(へいぞう・新井) → 宣卿(のぶのり・新井、儒者) C 3 5 7 3  
 平蔵(並蔵へいぞう・北村) → 季任(すえとう・北村/乙部、幕臣/儒者) F 2 3 4 8  
 平蔵(へいぞう・津軽) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5  
 平蔵(へいぞう・児玉) → 則忠(のりただ・児玉こだま、藩士/兵学) E 3 5 9 7  
 平蔵(へいぞう・上田) → 白水(はくすい・上田うえだ、儒/兵学) D 3 6 4 0  
 平蔵(へいぞう・玉虫) → 尚茂(ひさしげ・玉虫たまむし、藩士/兵学) B 3 7 1 2  
 平蔵(へいぞう・水原) → 宗梁(むねはり・水原みずはら、神職/歌) C 4 2 2 5  
 平蔵(へいぞう・柳田/草場) → 允文(いんぶん・草場/柳田、藩士/書家) G 1 1 0 7  
 平蔵(へいぞう・八島) → 為次(ためつぐ・八島やしま、藩士/剣術家) S 2 6 5 2  
 平蔵(へいぞう・花島) → 疎人(うとんど・勘定、狂歌) B 1 2 4 8  
 平蔵(へいぞう・香山/佐方) → 乙語(おつご・佐方さかた、藩士/俳人) D 1 4 1 7  
 平蔵(へいぞう・小野) → 鶴山(かくざん・小野、儒者) H 1 5 2 7  
 平蔵(へいぞう・佐原) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9  
 平蔵(へいぞう・伊万里屋) → 安美(やすよし・松本まつもと、商家/儒者) D 4 5 5 3  
 平蔵(へいぞう・松浦) → 桂川(けいせん・松浦まつうら、藩士/儒者) E 1 8 7 4  
 平蔵(へいぞう・天羽) → 仏牛(ぶつぎゅう・天羽あもう、藩士/俳人) D 3 8 2 8  
 平蔵(へいぞう・丸屋) → 朝平(ちようへい・金丸、俳人) J 2 8 7 9

- 平蔵(へいぞう・石野) → 広通(ひろみち・石野/中原、幕臣/歌人) H 3 7 2 7
- 平蔵(へいぞう・西田) → 稻麿(いなまろ・西田にしだ、庄屋/国学) B 1 1 1 2
- 平蔵(へいぞう・岡) → 長洲(ちようしゅう・岡おか、藩儒/詩文) I 2 8 7 1
- 平蔵(へいぞう・新庄) → 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6
- 平蔵(へいぞう・井上) → 保秋(やすあき・井上いのうえ、国学/歌人) F 4 5 2 6
- 平蔵(へいぞう・高津) → 溜川(しせん・高津/佐藤、藩儒/従軍記録) E 2 1 4 3
- 平蔵(へいぞう・佐々木) → 成忠(しげただ・佐々木ささき/木下、国学/神職) O 2 1 5 0
- 平蔵(へいぞう・佐藤) → 孝徴(たかあきら・佐藤さとう、藩の神学師) X 2 6 2 2
- 平蔵(へいぞう・水原) → 史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人) I 3 8 7 4
- 平蔵(へいぞう・平井) → 寛敬(ひろたか・平井ひらい、藩士/歌人) K 3 7 7 7
- 平蔵(へいぞう・平井) → 雪旭(せつきよく・平井ひらい、紺屋/絵師) O 2 4 2 4
- 兵蔵(へいぞう・古賀) → 兵蔵(ひょうぞう・古賀こが、心学者) F 3 7 3 2
- 兵蔵(へいぞう・石川) → 鳳台(ほうだい・石川いしかわ、藩士/詩人) C 3 9 2 3
- 兵蔵(へいぞう・桜田) → 南北(4世なんぼく・鶴屋、歌舞伎作者) 3 2 3 5
- 兵蔵(へいぞう・津田) → 閑斎(かんさい・津田つだ、儒者) Q 1 5 5 1
- 兵蔵(へいぞう・高野) → 立斎(りつさい・高野たかの、藩士/天文家) B 4 9 8 5
- 兵蔵(へいぞう・早野) → 白竜(はくりゅう・橘たちばな、華道家) E 3 6 0 9
- 兵蔵(へいぞう・庄司) → 文螭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳) G 3 8 1 3
- 兵蔵(へいぞう・野村) → 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1 9 7 8
- 兵蔵(へいぞう/ひょうぞう・堤) → 正敏(まさとし・堤つみ、儒者/禅学) E 4 0 5 5
- 兵蔵(へいぞう・山根) → 正豊(まさとよ・山根やまね、神職) T 4 0 5 2
- 米倉(べいそう・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7
- 平三盛勝(へいぞうもりかつ・坂口) → 坂阿(はんあ、坂口/早歌伝承者) I 3 6 8 3
- 敵帯子(へいぞうし) → 常矩(つねのり・田中、俳人) 2 9 1 2
- 弊帯主人(へいぞうしゅじん) → 潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業) 2 4 3 7
- 米村(べいそん・坂井) → 居平(やすひら・坂井さかい、庄屋/国学/歌) F 4 5 9 3
- 平太(へいた・東) → 氏村(うじむら・東とう/本姓平、武将/歌) 1 2 5 3
- 平太(へいた・殿村) → 正義(まさよし・殿村、篆刻/書家/俳人) I 4 0 5 2
- 平太(へいた・土肥) → 幹平(みきひら・土肥どひ、藩士・歌人) J 4 1 8 4
- 平太(へいた・永山) → 亥軒(がいけん・永山ながやま、藩士/儒者) I 1 5 6 2
- 平太(へいた・藤井/伊藤) → 相嘉(すけよし・茜部あかなべ/藤原/伊藤/藤井、藩士/国学) D 2 3 7 5
- 兵太(へいた・八木) → 巽所(そんしょ・八木やぎ/米、絵師) K 2 5 8 2
- 平太左衛門(へいたさえもん・堀) → 勝名(かつな・堀、家老;藩政改革/歌) N 1 5 6 1
- 平太左衛門(へいたさえもん・川畑) → 篤実(あつざね・川畑かわはた、歌人) B 1 0 2 7
- 平太左衛門(へいたさえもん・山崎) → 景憲(かげのり・山崎、藩士/兵法家) L 1 5 2 1
- 平太左衛門(へいたさえもん・松屋) → 耳鳥斎(にちょうさい・松屋、絵師) D 3 3 5 3
- 平太左衛門(へいたさえもん・浦野) → 神村(しんそん・浦野/源、藩士/儒者) P 2 2 3 3
- 2767 兵太夫(へいだゆう・下川しもかわ)?- ? 安桃江前期天正・慶長1573-1615頃の文筆家、加藤清正の右筆、「清正高麗陣覚書」著、又玄「清正記」巻二・三を筆記
- 2768 平太夫(へいだゆう・小林こばやし)?- ? 江前中期1684-1716頃浄瑠璃太夫:文弥門、芝居名代主
- 平大夫(へいだゆう・堀) → 季雄(ときかつ・堀ほり、藩士/詩歌/国学) J 3 1 0 5
- 平大夫(へいだゆう・梶野) → 良材(よしき・梶野かじの/久隅、幕臣/奉行) D 4 7 0 7
- 平太夫(へいだゆう・小峯) → 弘興(ひろおき・小峯こみね、兵法家) F 3 7 6 0
- 平太夫(へいだゆう・中村) → 鳳岡(ほうこう・中村なかむら、俳人) F 3 9 2 1
- 平太夫(へいだゆう・天野) → 野夫(やぶ・天野あまの、藩士/俳人) D 4 5 9 9
- 平太夫(へいだゆう・宇夫方) → 広隆(ひろたか・宇夫方うぶかた、藩士/伝記) G 3 7 1 8
- 平太夫(へいだゆう・佐々木) → 縮往(しゆくおう・佐々木、藩儒/絵師) Y 2 1 6 4
- 平太夫(へいだゆう・河村/川村) → 瑞軒(ずいけん・河村、材木商/土木) 2 3 5 0
- 平太夫(へいだゆう・三浦) → 竹溪(ちくけい・三浦、藩士/儒;徂徠学) C 2 8 8 4



平太夫(へいだゆう・三浦) → 瓶山(へいざん・三浦みうら、藩儒) 2 7 3 9  
 平太夫(へいだゆう・野村) → 信我(しんが・野村のむら/本姓;源、俳人) N 2 2 5 7  
 平太夫(へいだゆう・青木) → 盛卿(せいきょう・青木おおき、藩士/導引法) H 2 4 9 1  
 平太夫(へいだゆう・本保) → 全昌(ぜんしょう・本保ほんぼ、藩士/奉行) M 2 4 5 9  
 平太夫(へいだゆう・渡部) → 政通(まさみち・渡部わたなべ、藩士/日記) H 4 0 4 9  
 平太夫(へいだゆう・山本) → 広満(ひろみつ・山本やまもと、国学者) H 3 7 3 9  
 平太夫(へいだゆう・原) → 正陽(まさあき・原はら、藩士、国学) R 4 0 9 4  
 平太夫(へいだゆう・岡崎) → 敬喜(たかよし・岡崎おかざき、代官/歌人) W 2 6 2 7  
 平太夫(へいだゆう・岡野) → 依古(よりひさ・岡野おかの、藩家老/国学) M 4 7 0 5  
 平太夫(へいだゆう・南雲) → 喜珍(よしはる・南雲なぐも/藤原、神職) O 4 7 1 1  
 兵大夫(へいだゆう・田中) → 政知(まさとも・田中たなか、藩士/歌) L 4 0 6 7  
 兵大夫(へいだゆう・為田) → 只青(しせい・為田ためだ/小林、書/俳人) Z 2 1 0 3  
 兵太夫(へいだゆう・伊勢) → 貞明(さだあきら・伊勢/平、故実家) H 2 0 6 9  
 兵太夫(へいだゆう・野田) → 千町(ちまち・野田のだ、藩士/国学/歌) F 2 8 4 1  
 兵太夫(へいだゆう・渡辺) → 三休(さんきゅう・渡辺わたなべ、藩儒) M 2 0 0 0  
 兵太夫(へいだゆう・白子) → 昌平(まさひら・白子しらこ、商家/国学者) Q 4 0 2 7  
 兵太夫(へいだゆう・江村) → 老泉(ろうせん・江村えむら、藩士) 5 2 3 4  
 兵太夫(へいだゆう・一色) → 重熙(しげひろ・一色いっしき、藩士/漢学者) S 2 1 4 8  
 兵太夫(へいだゆう・武田) → 道年(みちとし・武田たけざわ/出川、歌人) J 4 1 6 9

2769 平太郎(へいたろう・石川いしかわ)?- ? 幕末期伊勢津藩士、蘭学、江戸住、「陸砲全書」訳

平太郎(へいたろう・八民) → 平七(へいしち・八民やたみ/竹田/筑田、浄瑠璃作者) 2 7 5 0  
 平太郎(へいたろう・吉田) → 令世(のりよ・吉田、儒者/歌人) 3 5 2 6  
 平太郎(へいたろう・那古屋) → 良富(よしとみ・那古屋なごや、藩士/詩人) E 4 7 9 8  
 平太郎(へいたろう・岡崎) → 廬門(ろもん・岡崎おかざき/平、詩人) C 5 2 4 4  
 平太郎(へいたろう・池辺) → 蘭陵(らんりょう・池辺いけば、藩士/儒者) D 4 8 2 5  
 平太郎(へいたろう・中西) → 邦孚(くにさね・中西ななし、幕臣/天文家) C 1 7 7 5  
 平太郎(へいたろう・川崎) → 武則(たけのり・川崎かわさき、国学/歌) W 2 6 6 1  
 平太郎(へいたろう・四宮) → 松陰(しょういん・四宮のみや、国学/神官) U 2 2 8 8  
 平太郎(へいたろう・児島) → 基隆(もとたか・児島こじま、絵師/神職/歌) J 4 4 9 6  
 平太郎(へいたろう・武田) → 道年(みちとし・武田たけざわ/出川、歌人) J 4 1 6 9  
 兵太郎(へいたろう・蘆名) → 天海(てんかい;法諱、天台僧/幕政参画) D 3 0 2 2  
 兵太郎(へいたろう・松島) → 百花(ひゃくはな・松島、歌舞伎役・作者) E 3 7 9 1  
 兵太郎(へいたろう・中山) → 文七(ぶんしち・中山/紅屋、歌舞伎役者) F 3 8 6 4  
 兵太郎(へいたろう・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田、儒者/地誌) 3 2 4 8

2770 平且(へいたん・難波なんば、別号;古松斎)?- ? 大阪?の俳人:1717薙髮記念「真砂月」編(如砥跋)、  
 1710文十「海陸後集」巻頭に文十・才磨との三吟歌仙入

平坦(へいたん・字・吉田) → 令世(のりよ・吉田、儒者/歌人) 3 5 2 6  
 平中(平仲へいちゅう) → 貞文(定文さだぶん・平、歌人/説話主人公) 2 0 2 4  
 平仲(へいちゅう・林) → 学斎(がくさい・林はやし、幕府儒官) J 1 5 8 6  
 平忠(へいちゅう・小幡) → 実忠(さねただ・小幡おばた/平、藩士、歌人) O 2 0 0 5

2771 米仲(べいちゅう・岡田) 1707 - 1766 60 江戸商家;白子屋/俳人:2世青峨門/其角座点者、書画、  
 沾徳系江戸座の有力俳人、1730青峨「続江戸筏」参加、34「江戸今八百韻」百庵と共編、  
 1734「たつのうら」35「かなあぶら」45「江戸廿歌仙」編、55「鞆うつば随筆」著、  
 1754竹翁「誹諧童の的」点句入、

[米仲の号] 初号:青瓊、牝冲巢ひんちゅうそう/月村所/青瓊玉/権道/八楽庵

2772 米中(米冲べいちゅう・小倉おぐら)?- ? 江後期大阪住の絵師:1828「插花常盤艸」画

米仲(2世べいちゅう) → 信鴻(のぶとき・柳沢、米翁、藩主/俳人) C 3 5 2 8  
 平直(へいちよく・石川) → 貫河(かんが・石川いしかわ、絵師) Q 1 5 0 3  
 萍亭柳菊(へいていりゅうきく) → 菊彦(きくひこ・柳屋やなぎや、合巻作者) K 1 6 2 2  
 米迪(べいてき) → 巽所(そんしよ・八木やぎ/米、絵師) K 2 5 8 2

- 並笛斎(へいてきさい) → 鶴人(初世かくじん・森川、俳人) I 1 5 0 7
- 2773 秉哲(へいてつ・鄭てい/伊差川、別名;佑実、鄭弘良男)1695-1760<sup>66</sup> 琉球久米村の生;若年で清に留学、1729帰国;尚敬王に出仕/都通事、史学者、1730系図座の役人として漢文「琉球国日記」編纂、1731「中山世譜」纂修、45「球陽会記(球陽)」編(;琉球最大の歴史書)/清国進貢使節に4度、のち真和志間切古波蔵村の地頭職・紫金大夫に就任、  
[秉哲(;名)の字/通称]字;濬橋しゅんきょう、通称;伊差川親方いさがわうえかた/古波蔵こはぐら親方  
秉哲(へいてつ・大沢) → 秉哲(のりあき・大沢おおさわ、幕臣/日記) E 3 5 2 4  
平田(へいでん;道号・慈均)→ 慈均(じきん;法諱・平田へいでん、臨済僧) B 2 1 7 0
- 2774 米都(べいと・鈴木すずき) ? - ? 江中期尾張名古屋の俳人・歌人、狂歌:油煙斎貞柳門、同門の永日庵其律と双璧、1737貞竹「狂歌戎の鯛」13首入/1742百子「狂歌時雨の橋」入、1777「歳旦七十賀」編、  
[米都(;号)の通称/別号]通称;紀豊、別号;秋園斎/西園斎さいおんさい/楊柳斎/洞庭園  
平道(へいどう・武藤/藤原)→ 平道(ひらみち・武藤むとう/藤原、商家/国学) F 3 7 4 1  
平堂(へいどう・大隈) → 言道(ことみち・大隈おおくま、歌人) 1 9 3 8  
平篤(へいとく・田宮) → 如雲(じょうん・田宮/大塚、藩士/藩政改革) M 2 2 1 5  
米徳(べいとく・柳沢) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/俳人) C 3 5 2 8  
米徳(べいとく・柳沢) → 保光(やすみつ・柳沢、信鴻男/藩主/諸芸) D 4 5 1 6  
平内(へいない・増田) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2  
平内(へいない・宍戸) → 大成(おおなり・宍戸/柿島、藩士/国学) C 1 4 8 1  
平内(へいない・水野) → 福富(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌) B 3 8 6 3  
平内(へいない・清水) → 義壽(よしひさ・清水しみず、神職/国学) N 4 7 2 8  
平内(へいない・中野) → 忠順(ただのぶ・中野なかの、藩士/書家) Y 2 6 6 2  
平内兵衛(へいないひょうえ) → 伸綱(のぶつな・馬來まき、藩士/歌人) J 3 5 9 6
- 2775 平入(初世へいにゅう・原田はらだ、名;福孝)1688-1758<sup>71</sup> 江中期江戸の幕臣;数寄屋方に出仕、石州流鎮信流茶人;野田酔翁門/江戸の下層武士・町人に茶を広める、「表具之書」「原田先生秘書」著、村士淡斎・息子平入2世の師、  
[平入(;通称)の号]号;無心庵/宗貞
- 2776 平入(2世へいにゅう・原田はらだ、初世平入男)?-? 江後期幕臣;数寄屋方に出仕/茶;父初世平入門、村士淡斎門/石州流鎮信流茶人、1811坊主衆の道具方出仕、お玉ヶ池・浜町に住、1808「道具図寸法書」著  
平入(へいにゅう;剃髮号) → 頼永(よりなが・遠山とおやま、歌学者) J 4 7 3 1  
米年(べいねん) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
平能(へいのう・平) → 信範(のぶのり・平たいら、廷臣/故実) 3 5 1 3
- 2777 平之丞(へいのじょう・辻つじ) ? - 1657 加賀金沢藩士/藩主前田利常に仕出:6百石、1647「加越能御絵図ニ書記申川幅并深サ之覚等」著
- 2778 平之丞(へいのじょう・岩井いかい)1777-1859<sup>83</sup> 陸中盛岡の鍛冶業/藩主に鉄硯を献上、狂歌師、書・歌に通ず、「具太久多嘶」「がらくた草紙」、1834「凶作百人一首」著、  
[平之丞(;通称)の号]鉄硯舎/鎚廻音成てつのおとなり(;狂歌号)、法号;鉄硯舎鎚阿音成信士  
平之丞(へいのじょう・森田) → 盛昌(もりまさ・森田、藩士/随筆家) G 4 4 5 1  
平之丞(へいのじょう・田中) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
平之丞(へいのじょう・小瀬/田中) → 朋如(ともゆき・田中/田、藩士/国学者) Q 3 1 8 0  
平之丞(へいのじょう・浅井) → 貞庵(ていあん・浅井あさい、医者) 3 0 2 6  
平之丞(へいのじょう・西川) → 雄山(ゆうざん・西川にしかわ、儒者/教育) B 4 6 9 2  
平之丞(へいのじょう・杉山) → 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者) D 4 6 3 7  
平之進(へいのしん・水足) → 博泉(はくせん・水足みずたり、儒者) D 3 6 5 1  
平之進(へいのしん・坪内) → 平右衛門(へいえもん・坪内つぼうち、藩士) 2 7 1 3  
平之進(へいのしん・太田) → 蘭堂(らんどう・太田おた、俳人) D 4 8 1 1  
平之進(へいのしん・増山) → 遷永(ゆきなが・増山ますやま、御師/国学) H 4 6 2 6  
兵之進(へいのしん・小尾) → 鳳山(ほうざん・小尾おび、戸主/文筆家) B 3 9 1 0  
平之允(平之丞へいのすけ・木下) → 順庵(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育) 2 1 5 4

平之允(へいのすけ・水足) → 博泉(はくせん・水足みずたり、儒者) D 3 6 5 1  
 平之允(へいのすけ・羽室) → 貞風(さだかぜ・羽室/藤原、藩士/歌人) H 2 0 9 5  
 平之允(へいのすけ・杉山) → 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者) D 4 6 3 7  
 平之佑(平之丞へいのすけ・森田) → 良見(良美よしみ・森田、藩士/国学者) H 4 7 2 9  
 平之助(へいのすけ・熊谷) → 直遐(なおほる・熊谷くまがい、郷土史家) C 3 2 1 3  
 平之助(へいのすけ・真田) → 錦里(きんり・真田さなだ、本草家) R 1 6 9 6  
 兵之助(へいのすけ・夏目) → 信明(のぶあき・夏目なつめ、幕府/歌) G 3 5 6 6  
 兵之助(へいのすけ・原田) → 則長(のりなが・原田はらだ、神職/和学) J 3 5 7 3  
 兵之助(へいのすけ/ひょうのすけ・堀田) → 仁助(にすけ・堀田ほつた/藤原、暦算家) 3 3 3 3  
 兵之助(へいのすけ・三岡みおか) → 焼餅道人(しょうへいどうじん・三岡、藩士/歌) V 2 2 2 7

2779 平八(へいはち;通称・西村にしむら、屋号;青雲館)?-? 江中後期1751-1801頃京新町通二条上ルの書肆、  
 1784(天明4)刊「京羽二重大全」編

平八(初代へいはち・重元) → 房吉(ふさきち・重元、箏曲) C 3 8 0 2  
 平八(へいはち・那波) → 活所(かつしよ・那波なば/祐、漢学者) 1 5 2 3  
 平八(へいはち・中江) → 岷山(びんざん/みんざん・中江、儒者) 3 7 3 4  
 平八(へいはち・塩川) → 久貞(ひささだ・塩川しおかわ、藩士) B 3 7 0 4  
 平八(へいはち・三橋) → 夕流(せきりゅう・三橋みつはし、藩士) K 2 4 5 2  
 平八(へいはち・野崎) → 教景(のりかげ・野崎、藩士/儒者) E 3 5 3 5  
 平八(へいはち・殿村) → 正義(まさよし・殿村、篆刻/書家/俳人) I 4 0 5 2  
 平八(へいはち・永山) → 亥軒(がいけん・永山ながやま、藩士/儒者) I 1 5 6 2  
 平八(へいはち・磯野) → 渙斎(かんさい・磯野いその、藩士/儒者) Q 1 5 5 3  
 平八(へいはち・佐原) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9  
 平八(へいはち・広瀬) → 月化(げつか・広瀬ひろせ、商家/俳人) B 1 8 0 1  
 平八(へいはち・成瀬) → 久敬(ひさたか・成瀬なるせ、藩士/史家) B 3 7 2 2  
 平八(へいはち・清水屋/石橋) → 春吟(しゅんぎん・随泉舎、狂歌作者) M 2 1 7 7  
 平八(へいはち・朝比奈) → 玄洲(げんしゅう・朝比奈あさいな、藩士/儒者) E 1 8 8 9  
 平八(へいはち・大森/川喜田) → 敏則(としのり・川喜田かわきた/大森、商家/国学) U 3 1 8 3  
 平八(へいはち・松田) → 平四郎(へいしろう・松田、筆墨商/陶工) 2 7 5 2  
 平八(へいはち・照山) → 貞信(ていしん・照山てるやま、和算家/暦学) B 3 0 2 8  
 平八(へいはち・下郷/清水) → 雷首(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩) 4 8 5 4  
 平八(へいはち・谷山) → 純香(すみか・谷山たにやま、藩士/歌人) I 2 3 7 6  
 平八(へいはち・大池) → 敏国(としくに・大池おおいけ、国学/歌人) U 3 1 4 7  
 平八(へいはち・松田) → 豊幹(とよもと・松田まつだ、国学者) W 3 1 4 9

B2753 平八郎(へいはちろう・羽山はやま、名;繁樹しげき/号;八九翁)?-? 江中期;出雲松江藩士;士大将、  
 歌人;冷泉為村(1712-74)門

平八郎(へいはちろう・本多) → 忠勝(ただかつ・本多、武将/城主) P 2 6 3 7  
 平八郎(へいはちろう・松平/本多) → 忠国(ただくに・本多ほんだ、藩主) P 2 6 4 4  
 平八郎(へいはちろう・荏戸) → 政共(まさとも・荏戸のぞき、藩士/和学者) R 4 0 5 3  
 平八郎(へいはちろう・大塩) → 中斎(ちゅうさい・大塩、儒者/義挙) G 2 8 0 7  
 平八郎(へいはちろう・松永) → 良弼(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士) D 4 7 7 8  
 平八郎(へいはちろう・菊池) → 南洲(なんしゅう・菊池さくち、儒者) J 3 2 1 9  
 平八郎(へいはちろう・佐瀬) → 主計(かづえ・佐瀬させ/さぜ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9  
 平八郎(へいはちろう・荒尾) → 成章(しげあき・荒尾あらお、幕臣/奉行職) Q 2 1 4 8  
 平八郎(へいはちろう・荒尾) → 成允(しげまさ・荒尾、成章男/幕臣/外交) S 2 1 6 7  
 平八郎(へいはちろう・高橋) → 正元(まさもと・高橋たかはし、幕臣/和学) Q 4 0 7 2  
 平八郎(へいはちろう・加藤) → 竹亭(ちくてい、加藤/春日、儒者/書) D 2 8 5 0  
 平八郎(へいはちろう・市川) → 貞風(まかぜ・市川/藤原、幕臣/国学) 4 0 5 0  
 平八郎(へいはちろう・川喜田) → 敏則(としのり・川喜田かわきた/大森、商家/国学) U 3 1 8 3  
 平八郎(へいはちろう・小川地) → 喜広(きひろ・小川地おがわら、神職) G 4 7 6 5  
 平八郎(へいはちろう・岡部) → 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6

平八郎(へいはちろう・土橋)→ 友直(ともなお・土橋つちはし/三宅、儒/教育) V 3 1 7 6  
 平八郎(へいはちろう・下郷/清水)→ 雷首(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩) 4 8 5 4  
 平八郎(へいはちろう・土佐屋)→ 百川(ひやくせん・榊原さかきばら、絵師/俳人) E 3 7 6 4  
 平八郎(へいはちろう・忠海屋)→ 石霞(せつか・高橋/和田、商家/経済) K 2 4 7 6  
 平八郎(へいはちろう・名越)→ 高朗(たかあき・名越なごや/なごえ、郷土/農業) Y 2 6 4 4  
 平八郎(へいはちろう・黒瀬)→ 紫朗(しろう・藤村ふじむら/萱野/黒瀬、藩士/知事) V 2 2 1 9  
 平八郎(へいはちろう・増田)→ 基明(もとあき・増田ますだ、国学者/歌) L 4 4 3 5  
 平八郎(へいはちろう・浅見簡明)→ 喜信(よしのぶ・矢田部やたべ、国学/歌人) P 4 7 7 2  
 平備(へいび) → 平備(ひょうび; 法諱、法相僧) F 3 7 3 7  
 兵部(へいぶ) すべて → 兵部(ひょうぶ)

2780 米布(べいふ・信高、別号; 竹里館)?-? 1781-9頃没 尾張名古屋の商人/俳人: 也有と交流、  
 1748「隠里追善集」編

米夫(べいふ・俳名) → 専助(初世せんすけ・笠縫かさぬい、歌舞伎作者) G 2 4 1 2  
 米富(べいふ・笠縫) → 専助(初世せんすけ・笠縫かさぬい、歌舞伎作者) G 2 4 1 2  
 平蕪庵鳥我(へいぶあんちやうが)→ 敲氷(こうひょう、上矢/野沢、俳人) B 1 9 8 7  
 炳文(へいぶん・小林) → 寒翠(かんすい・小林こばやし、藩士/漢蘭学) H 1 5 6 9  
 平々(へいべい・北野屋) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9  
 兵平(へいべい・長田) → 好静(よしじず・長田ながた、名主/神職) O 4 7 2 5  
 米々斎赤須賀米(べいべいさいあかすかべい)→ 振鷺亭(しんろてい・猪狩、戯作) 2 2 3 2

2704 平兵衛(へいべえ・長尾ながお)? - ? 江前期; 京の二条通仁王門町烏丸東入の書肆、  
 1671「本朝書籍目録外録」編

B2756 平兵衛(へいべえ・溝口みぞぐち/旧姓; 岡田、通称; 貞吉) 1844-? 江後期; 上総市原郡の国学者/歌人、  
 国学; 立野たつの良道門、国学・歌; 黒川春村門、上総望陀郡に住

平兵衛(へいべえ・出淵) → 盛房(もりふさ・出淵でぶち/いずぶち、藩士/剣術家) G 4 4 4 5  
 平兵衛(へいべえ・藤田) → 安勝(やすかつ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 1 6  
 平兵衛(へいべえ・石川) → 麟洲(りんしゅう・石川、儒者/徂徠批判) K 4 9 4 2  
 平兵衛(へいべえ・富永) → 辰寿(しんじゅ・俳名・富永、歌舞伎役/作者) E 2 2 4 4  
 平兵衛(へいべえ・大口屋)→ 稻有(とうゆう・大口屋、豪商/十八大通) H 3 1 5 9  
 平兵衛(へいべえ・永井) → 正次(まさつぐ・永井ながい、幕臣/和学) R 4 0 2 2  
 平兵衛(へいべえ・大喜屋/木村)→ 南冥(なんめい・木村、心学者) J 3 2 5 6  
 平兵衛(へいべえ・斎藤) → 実純(さねずみ・斎藤さいとう、藩士/国学者) K 2 0 8 7  
 平兵衛(へいべえ・北野屋)→ 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9  
 平兵衛(へいべえ・蔦屋) → 希言(きげん・岩下いわした、薬種商/俳人) B 1 6 0 9  
 平兵衛(へいべえ・服部) → 安休(あんきゅう・服部はっとり、藩士/神道) G 1 0 0 2  
 平兵衛(へいべえ・石井) → 宗澄(そうちやう・石井いい、名主/歌人) C 2 5 5 5  
 平兵衛(へいべえ・石井) → 信房(のぶふさ・石井いい、宗澄男/歌人) H 3 5 3 3  
 平兵衛(へいべえ・栗田) → 維良(これよし・栗田/高野、史家、俳) O 1 9 9 9  
 平兵衛(へいべえ・田中) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 平兵衛(へいべえ・藤田) → 安処(やすずみ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 8 0  
 平兵衛(へいべえ・橘屋) → 瓶吾(へいご・橘香亭きこうてい、断本作者) 2 7 2 7  
 平兵衛(へいべえ・大坂屋)→ 保寿(ほうじゅ・河原/小河原、商家/書) B 3 9 2 9  
 平兵衛(へいべえ・岸) → 静知(しずとも・岸よし、藩士/国学者) O 2 1 2 1  
 平兵衛(へいべえ・岸上/加藤)→ 晝台(きやうたい・加藤/岸上きしのうえ、俳人) 1 6 3 6  
 平兵衛(へいべえ・児島) → 天泐(てんろく・児島こじま、儒者/詩文) E 3 0 6 4  
 平兵衛(へいべえ・植村) → 重遠(しげとお・植村うえむら、和算家) R 2 1 6 3  
 平兵衛(へいべえ・平野) → 柄悟(へいご・平野ひらの、通事/華音) B 2 7 5 1  
 平兵衛(へいべえ・杉山) → 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者) D 4 6 3 7  
 平兵衛(へいべえ・小笠原)→ 嘯山(しょうざん・小笠原おがさわら、幕臣/歌) J 2 2 2 8  
 平兵衛(へいべえ・田原屋)→ 相常(すけつね・田原たわら、書肆) G 2 3 5 2  
 平兵衛(へいべえ・川喜田)→ 成章(なりあき・川喜田かわきた/村木、商家/国学) L 3 2 7 0

- 平兵衛(へいべえ・笠井) → 貞之(さだゆき・笠井かさい/安田、塩田/儒者) O 2 0 2 7
- 平兵衛(へいべえ・本間) → 季隆(すえたか・本間ほんま、和算家) F 2 3 4 9
- 平兵衛(へいべえ・青木) → 並房(なみふさ・青木あおき、藩士/国学者) K 3 2 7 5
- 平兵衛(へいべえ・鈴木) → 修安(ながやす・鈴木すずき、藩士/国学者) N 3 2 5 4
- 平兵衛(へいべえ・犬塚) → 良重(よししげ・犬塚いぬづか、幕臣/国学者) L 4 7 6 2
- 平兵衛(へいべえ・中里) → 常秋(つねあき・中里なかざと、国学者) G 2 9 0 6
- 平兵衛(へいべえ・里見) → 清民(きよたみ・里見さとみ、神職/国学) U 1 6 4 3
- 平兵衛(へいべえ・関) → 盛辰(もりとき・関せき、藩士/国学者/歌) K 4 4 1 6
- 平兵衛(へいべえ・平井) → 寛敬(ひろたか・平井ひらい、藩士/歌人) K 3 7 7 7
- 平兵衛(へいべえ・平野) → 眞守(まもり・平野ひらの、歌人) S 4 0 1 4
- 平兵衛(へいべえ・野島) → 正武(まさたけ・野島のじま、陪臣/歌人) R 4 0 4 8
- 平兵衛尉(へいべえのじょう・樋口) → 兼次(かねつぐ・樋口ひぐち、和算家) O 1 5 6 3
- 平甫(へいほ→へいすけ) → 溜川(しせん・高津/佐藤、藩儒/記録) E 2 1 4 3
- 兵峯(へいほう・白石) → 長忠(ながただ・白石、和算家) E 3 2 1 5
- 並房(へいぼう・青木) → 並房(なみふさ・青木あおき、藩士/国学者) K 3 2 7 5
- 兵馬(へいま) すべて → 兵馬(ひょうま)
- 平馬(へいま・入江) → 東阿(とうあ・入江いりえ、暦算/軍学者) 3 1 7 0
- 平馬(へいま・杉森) → 門左衛門(初世もんざえもん・近松、浄瑠璃作者) 4 4 3 7
- 平馬(へいま・中野) → 君規(きみのり・中野、藩士/詩文) M 1 6 0 6
- 平馬(へいま・喜早) → 清在(きよあり・喜早きそ、神職) N 1 6 0 6
- 平馬(へいま・喜早) → 清主(きよぬし・喜早きそ、神職) Q 1 6 0 8
- 平馬(へいま・山鹿) → 義都(よしくに・山鹿やまが、藩士/兵学者) D 4 7 2 3
- 平馬(へいま・奥田) → 紫残(しざん・奥田おくた、俳人) T 2 1 5 5
- 平馬(へいま・高山) → 寅吉(とらきち・高山、天狗小僧、国学) R 3 1 7 2
- 平馬(へいま・大内) → 定盛(さだもり・大内おおうち、藩士/儒者) J 2 0 9 9
- 平馬(へいま・伊東) → 祐命(すけのぶ・伊東/藤原、藩士/歌人) C 2 3 1 3
- 平馬(へいま・蘆沢) → 元徴(もとりのり・蘆沢あしざわ、国学/歌人) J 4 4 0 9
- 平馬(へいま・井上) → 保秋(やすあき・井上いのうえ、国学/歌人) F 4 5 2 6
- 平馬(へいま・三輪) → 秀憲(ひでのり・三輪みわ、藩士/歌道) L 3 7 3 6
- 平馬(へいま・山田) → 足穂(たりほ・山田やまだ、神職/国学) 2 7 1 7
- 平眠(へいみん・石附) → 将茂(まさしげ・石附いじつき、商家/歌/能) N 4 0 6 0
- 平明(へいめい・菅原) → 孟(たけし・菅原すがわら/菅、医者) O 2 6 3 8
- 平明(へいめい・唐沢) → 平明(ひらあき・唐沢からさわ/下平、歌人) J 3 7 1 2
- 並明(へいめい・横井) → 也有(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7
- 柄明(へいめい・谷) → 左中(さちゅう・谷たに、幕臣) K 2 0 4 6
- 平明亭(へいめいてい) → 平明(ひらあき・唐沢からさわ/下平、歌人) J 3 7 1 2
- 2781 平明亭鳥兼(へいめいていとりかね)?- ? 江後期上州藤岡の狂歌作者:松華連、  
「狂歌松の花」編
- 平也(へいや・岩下) → 文兆(ぶんちよう・岩下いわした、俳人) G 3 8 2 1
- 平弥(へいや・久山) → 信嘉(のぶよし・久山ひさやま、神職/歌人) J 3 5 8 0
- 兵弥(へいや・太田) → 有富(ありとみ・太田おた、神職/国学/歌) H 1 0 3 2
- 平兪(へいゆ) → 兪(ゆ・平へい、漢学者) 4 6 3 0
- 並雄(へいゆう・稲田) → 並雄(なみお・稲田いなだ、医者/国学/歌) K 3 2 2 0
- 炳友(へいゆう・宮原) → 炳友(あきとも・宮原みやはら、儒者/歌人) L 1 0 6 1
- 2782 米友(べいゆう・沢さわ) 1790 - 187081 近江大津丸屋町の書肆/俳人、法橋、  
1858「おもだか集」編、雅友の父、  
[米友(;号)の通称/別号]通称;宗次郎、別号;真々居
- 2783 平陽(へいよう・吉田よしだ、鶴沼うぬま直易男) 1790-186273 筑前秋月藩士/1804吉田虎彰家を継嗣、  
藩校稽古館句読師/稽古館訓導/助教、1814藩儒を免職;江戸金奉行に転勤/大坂蔵奉行、  
1834稽古館教授を兼任、49御用役;藩政参画/57隠居、儒;原古処・亀井昭陽・佐藤一斎門、

1831「知新録」、「平陽詩集」「平陽文集」「国計亀鑑」「集要録」「道論」「包荒論」外著多数、  
[平陽(；号)の名/通称]名；虎炳、通称；競/紀四郎/喜三兵衛

薛羅館(へいらかん)	→	重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋つたや、書肆)	2 1 4 2
平楽山(へいらくざん)	→	楽山(らくざん・築山つきやま、絵師)	B 4 8 1 5
平楽寺(へいらくじ)	→	勘兵衛(初世かんべえ・村上浄雲、書肆)	G 1 5 5 8
米里(べり・五十川)	→	基(もとい・五十川いそかわ/いかわ、藩医者)	C 4 4 1 1
萍流(へいりゅう・小川)	→	布淑(のぶよし・小川、歌人)	C 3 5 3 4
平榴斎(へいりゅうさい)	→	文豊(ふみとよ・長瀬ながせ/斎藤、国学者)	D 3 8 9 5
平陵(へいりょう・松会)	→	芳文(よしふみ/よしふみ・松会まつえ、書家)	G 4 7 8 2
米隣翁(べいりんおう)	→	寥松(りょうしょう・巒みね、俳人)	I 4 9 1 4
米隣扇(べいりんせん)	→	松什(しょうじゅう・鈴木、俳人)	S 2 2 9 7
薛荔庵(へいれいあん)	→	昌章(まさあき・大窪/志村、本草学)	B 4 0 0 6

2784 **平六**(へいろく・長塩ながしお、祐左衛門男)?-1843 遠江掛川藩士；1789近習、格式馬廻/家譜掛、  
吟味奉行を歴任/1811家督嗣/16留守居役/格式物頭/格式鎗奉行/1835隠居、歌を嗜む、  
1838「大城紀聞」編、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
[夕月に光そへてし卯の花の有明までもなほ匂ふかな](大江戸倭歌；夏412卯花盛久)、  
[平六(；通称)の別通称/号]初通称；平十郎、号；宗仙

平六(へいろく・安東)	→	政藤(まさふじ・安東あんど、室町幕臣)	H 4 0 2 2
平六(へいろく・田口)	→	日念(にちねん；法諱・安住院、日蓮僧)	D 3 3 1 1
平六(へいろく・立花)	→	重種(しげたね・立花/黒田、藩家老)	R 2 1 3 7
平六(へいろく・平田)	→	可竹(かちく・平田ひらた、藩士/兵法家)	N 1 5 1 2
平六(へいろく・田中/伊王野/青木)	→	浩斎(こうさい・青木/伊王野いおの、医/蘭学者)	I 1 9 9 9
平六(へいろく・宮崎)	→	言周(ことぶ・宮崎みやざき/加集かお、藩士/郷土史家)	N 1 9 3 2
平六(へいろく・木村)	→	鐸山(たくざん・木村きむら、藩士/書家)	O 2 6 0 0
平六(へいろく・丸山)	→	蔚明(もちあき・丸山、藩士/文運興隆)	B 4 4 2 7
平六(へいろく・新渡戸)	→	維民(これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学)	O 1 9 4 8
平六(へいろく・杉井)	→	吉従(よしより・杉井すぎい、藩士/歌人)	N 4 7 4 6
平六郎(へいろくろう・高須)	→	葛根(つねね/くづね/かつね・高須、醸造業/国学)	B 2 9 1 8
辟(へき・高島)	→	定辟(さだり・高島たかばたけ、藩士/記録)	J 2 0 3 1
碧(へき；一字名)	→	政為(まさため・冷泉/藤原、廷臣/歌人)	4 0 1 0
碧(へき・西山)	→	員直(かずなお・西山にしやま、藩士/神職)	V 1 5 3 3
璧(へき・結城)	→	香崖(香厓こうがい・結城ゆうき、藩儒/詩)	G 1 9 2 1

2785 **碧庵**(碧菴へきあん・岡井おかい、名；泰、玄人男)1626-1698<sup>73</sup> 江戸の儒者；林家に修学、讃岐高松藩儒、  
「碧菴遺稿」、

[碧庵(；号)の字/別号]字；定叟、別号；東臯、法号；碧庵瀬流

碧雲軒(へきうんけん)	→	元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳)	B 1 8 2 7
碧雲洞(へきうんどう)	→	蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師)	3 8 1 1
碧翁(へきおう・鳥山)	→	松岳(すうがく・鳥山とりやま、儒/詩人)	2 3 9 6
碧屋山(へきおくざん)	→	尚善(しょうぜん・斎藤さいとう、和算家)	K 2 2 4 5

2786 **碧於亭**(へきおてい・池永いけなが)1786-1860<sup>75</sup> 紀伊西谷村の漢学者/田辺藩盗賊方/1849藩校教授、  
詩/歌嗜む、1848「碧於斎詩草」49「史記律曆書解」、「菅公950回忌奉獻俳句廻文歌仙独吟」、  
「眞詩聯」「眞詩聯礎」「従政名言国字解」「戦国策譚撮摘解」「海防談柄天球地輿略図説」著、  
[碧於亭(；号)の名/字/通称/別号]名；淵、字；士深、通称；源蔵、別号；寿敬/寿散

碧於亭(へきおてい)	→	澹泊(たんぱく・安積あさか、儒者/史家)	2 6 9 5
碧霞(へきか；号)	→	元俊(げんしゅん・小石こいし、医者)	J 1 8 7 3

2787 **碧海**(へきかい・柴野しばの/修姓；柴、貞毅男)1773-1835<sup>63</sup> 讃岐牟礼の生/伯父柴野栗山の養嗣子、  
栗山の塾で修学/江戸昌平黌入学/1788栗山の幕府儒官任官により後継として阿波藩儒、  
藩督学/1794藩命で長崎遊学/99近畿中国を歴遊/1801阿波に移住/寺島学問所の主席、  
詩文；1835「枕上集」、「枕上後集」「碧海文抄」「家世紀聞」「唐宋八家文翼」「栗山遺事」著、  
[碧海(；号)の名/字/通称/別号]名；允升、字；応登/吉甫、通称；平次郎、別号；東霞

- 2788 **碧海**(へきかい・内藤ないとう、本姓;美濃部)1827-1903<sup>77</sup> 常陸水戸藩士/漢学者:藩校弘道館入学; 会沢正志斎・藤田東湖門/1865(慶応元)弘道館教授:頭取/歴史家、幕末水戸藩の抗争に巻かれ東北各地を逃避、維新後;東京住/1878東京府小石川区長、1886帝国大学文科大学教授:漢学・史学を講ず、江戸幕府制度史に精通、「開国起原・安政紀事」「徳川十五代史」「江戸文学志略」「孫子呉子講義」「近世名家文叢」著、「近思録講義」「明道論」「碧海漫鈔」外著多数、三上参次の師、[碧海(;号)の名/字/通称/別号]名;正直まさなお、字;仲養・大道/王道、通称;弥太夫、別号;**耻叟**ちそう、変名;湯沢三四郎
- 碧海(へきかい・阿部) → 為任(ためとう・阿部あべ、本草家/英語) S 2 6 5 5  
 碧海(へきかい・村上) → 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9  
 碧厓(へきがい・熊谷) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0  
 碧岨(へきがい・道節) → 柏巖(はくがん・性節、黄檗僧) I 3 6 8 8  
 壁観(へきかん;号) → 魯道(ろどう;法諱、曹洞僧/国学者) C 5 2 7 9  
 碧巖(へきがん・道節) → 柏巖(はくがん・性節、黄檗僧) I 3 6 8 8  
 碧巖(へきがん;号) → 曇菴(どんりゅう;法諱、真宗本願寺派僧) S 3 1 4 9  
 癖玉(へきぎよく・藤倉) → 元菴(げんりゅう・藤倉ふじくら、医者/詩) M 1 8 9 5  
 碧玉江山人(へきぎよくこうさんじん) → 嘯山(しょうざん・三宅、俳/詩人) S 2 2 5 0  
 碧軒(へきけん) → 昌易(しょうえき・松永、尺五男/儒者) F 2 2 4 5
- 2789 **碧湖**(へきこ;道号・元達げんたつ;法諱、俗姓;原口)1646-1709<sup>64</sup> 肥前佐賀郡梯久村の僧; 1658(13歳)利貞寺好岩茂門;出家/黄檗僧:宇治万福寺隠元門/木庵より法名を受、1667美濃加茂郡小松寺潮音道海門/小松寺住持、1678潮音の法嗣/肥前宝蔵寺など開山、1702「碧湖禅師語録」著
- 碧湖(へきこ・真野) → 頼恭(よりたか・真野まの、藩士/儒/狂歌) I 4 7 9 1  
 碧梧庵(へきごあん) → 悟庵(ごあん・半井なからい、医/歌学) 1 9 0 0  
 碧梧山房(へきごさんぼう) → 椿山(ちんざん・椿つばき、幕臣/兵学/絵師) K 2 8 7 4  
 碧梧桐(へきごとう) → 如矢(ゆきや・伊佐庭いさにわ/成川/阿部、教育/町長) G 4 6 5 1  
 碧梧楼(へきごろう) → 圯南(いなん・武富たけとみ、儒者/詩文) I 1 1 1 3  
 碧山(へきざん;号) → 大極(たいきよく/たいぎよく;道号、臨濟僧) B 2 6 2 6  
 碧山(へきざん;号) → 光撰(こうせん;法諱・本如;号、西本願寺19世) K 1 9 1 4  
 碧山(へきざん・黒岩) → 慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者;南学) B 2 1 0 5  
 癖山子(へきざんし) → 孝庸(たかつね・宮城みやぎ/宮木、藩士/歌) Z 2 6 8 1  
 碧山堂(へきざんどう) → 重忠(しげただ・鴨かも/田窪、神職/歌人) N 2 1 8 6  
 碧秋水(へきしゅうすい) → 玄同(げんどう・田子たご、医者) L 1 8 9 2  
 碧照(へきしょう;号) → 誠拙(せいせつ;道号・周樗;法諱、臨濟僧) C 2 4 4 5
- B2742 **昏松**(へきしょう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- 碧勝宮(へきしょうぐう) → 又兵衛(またべえ・藤原/荒木、絵師) J 4 0 5 5
- 2790 **碧水**(へきすい・上田うえだ、官兵衛男)1809-89<sup>81</sup> 阿波国脇町の儒者;外祖父三宅松庵門、国学:岩雲花香門、弘化1844-48頃私塾発生塾を開く、1869猪尻の至道館教授、篠崎小竹と交流、「碧水稿本」著、[碧水(;号)の通称/別号]通称;隆三郎、別号;蘿紅
- 碧水(へきすい;号) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5  
 碧僊(へきせん・乙骨おつこ) → 耐軒(たいけん・乙骨おつこ/鳥羽、儒/詩) B 2 6 3 0  
 壁銭堂(へきせんどう) → 寸木(すんぼく・木村、酒造業/俳人) D 2 3 6 3  
 碧鮮堂(へきせんどう) → 知次(ともつぐ・青山、藩家老) P 3 1 8 1  
 碧倉(へきそう・高橋) → 由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師) 4 6 4 3  
 碧潭(へきたん;道号・周皎;法諱) → 宗鏡(そうきやう;禅師、臨濟僧) B 2 5 0 8  
 碧譚院(へきたんいん;法号) → 利和(としよし・前田まえだ、藩主/歌人) T 3 1 7 5  
 碧亭(へきてい・三宅) → 高翰(たかもと・三宅みやげ、商家/国学) Z 2 6 7 1  
 碧天(へきてん・小津) → 長澄(ながすみ・小津おづ/筒井、国学者) L 3 2 4 0  
 碧田(へきてん) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7

- 碧桃(へきとう・野村) → 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Y 2 6 9 2  
 碧濤斎(へきとうさい) → 徳則(とくのり・林はやし、大庄屋/海防策) L 3 1 2 9
- 2791 日置長枝娘子(へきのながえのおとめ)?-? 万葉四期歌人:八1564秋雑歌(家持と相聞)、  
 [秋つけば尾花が上に置く露の消ぬべくも吾れは思ほゆるかも](万葉集;1564)、  
 (1565大伴家持の和ふる歌[我が宿の一群萩を思ふ兒に見せずほとほと散らしつるかも])
- 碧峰(へきほう・那珂) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/詩歌) C 4 1 3 9
- 2703 平群氏女郎(へぐりし[うじ]のいらつめ)?-? 奈良後期万葉四期歌人、伝不詳、  
 越中守大伴家持に時々恋歌を贈る(合計12首);十七3931-42、  
 [君により我が名はすでに竜田山絶えたる恋の繁きころかも](万葉集;3931)
- 2792 平群朝臣(へぐりのあそみ:名不詳)?-? 万葉十六3842:穂積朝臣を嗤う歌、赤鼻か?  
 1843穂積朝臣の返歌、  
 [童わらはども草はな刈りそ八穂蓼やはたを穂積の朝臣あそが腋草を刈れ](万葉;3842)  
 平群広成か? → 広成(ひろなり・平群、官僚) G 3 7 6 4  
 平群実柿(へぐりのさねがき) → 正式(まさのり・池田、俳人/狂歌) F 4 0 9 4  
 辺越方人(へこしのかたうど) → 方人(かたうど・辺越、佐野屋七兵衛/狂歌) C 1 5 3 1
- 2793 平敷親雲上(へしきへーちん)?-? 琉歌踊「巡見じゅんみの官」「久志の若按司わかあじ」作  
 平秩東作(へずつとうさく) → 東作(とうさく・平秩、狂歌/戯作) 3 1 1 3
- 2794 臍穴主(へそのあなぬし、渡瀬庄兵衛/庄左衛門)?-? 江戸牛込赤城下水戸町の名主、狂歌:朱楽連、  
 早くから南畝と交遊、1785「後万載」7首/87「才蔵集」入、別号;臍穴守へそのあなもり、  
 [織姫の年は十六ささげはた(十六大角豆の畑)たれも女房にほし合の空]  
 (徳和歌後万載集;三秋212)  
 臍穴守(へそのあなもり) → 臍穴主(へそのあなぬし、渡瀬、名主/狂歌) 2 7 9 4  
 蓆成(へたなり・渋柿) → 楽(たぬし・今村、虎成/医/国学/歌) G 2 6 3 4  
 下手内匠(へたのたくみ) → 天明老人(てんめいろうじん、大工棟梁/狂歌) E 3 0 3 7  
 手丸(へたまる・柿下) → 柿下手丸(かきのへたまる、狂歌) E 1 5 5 7
- B2740 絲瓜皮成(へちまのかわり)?-? 江戸狂歌;1785「後万載集」2首入;  
 [七夕にねがひの糸の有たけをくりかへしいつゝかけていのらん]  
 安岡親毅と同一? → 親毅(ちかたけ・安岡、伊勢の郷土史家/狂歌) B 2 8 1 3  
 辺智摩川成(へちまのかわり) → 親毅(ちかたけ・安岡、郷土史家/狂歌) B 2 8 1 3  
 J翁(べつおう・前田) → 玄通(げんつう・前田まえた、医者) L 1 8 4 6  
 J翁(べつおう・中島) → 勝称(かつな・中島なかじま、陪臣/歌人) V 1 5 1 8
- 2795 別眼(べつがん;法諱) ?-? 江中期曹洞僧/一先祖道(1747没)の侍者、  
 「一先和尚閑夢録」編  
 別源(べつげん;道号) → 円旨(えんし;法諱・別源、曹洞僧) 1 3 9 7  
 別湖亭(べつこてい) → 千山(せんざん・矢野やの、俳人) F 2 4 5 6
- 2796 J左(べっさ・丸山まるやま、名;徳右衛門)1801-9191 信濃更級郡西寺尾村の農業/俳人:茂呂何丸門、  
 何丸(月院社)の高弟、西寺尾村願気神社境内に芭蕉句碑建立、諸国遊歴記念百韻を完成;  
 1852「はつさくら」として編/刊行、1853江戸浅草新寺町吉祥院で剃髪;2世月院社を襲名、  
 1863「蕉門中興俳諧一覽集」著、維新後も活動;1870「古稀筵集」編、  
 1881門弟により西寺尾村に句碑建立、1888「J左句集」著、  
 [J左(;号)の通称/別号]通称;米蔵、別号;来禽亭/半坊/月院社2世、法号;月院J左居士
- 2797 麓山(別山べつざん;道号・吞江/吞光どんこう;法諱)?-1784 美濃曹洞宗阿弥陀寺住持/美濃大覚寺3世、  
 伊勢長楽寺5世、武蔵迦葉院4世/武蔵景勝寺開山、迦葉院開山黙山元轟の伝記執筆;  
 1780「黙山和尚年譜」著、  
 参考 → 黙山(もくざん;道号・元轟げんこう、曹洞僧) 4 4 8 7
- 2798 別宗(べつしゅう;道号・祖縁そえん;法諱/初法諱;玄縁、佐々木ささき定之男)1658-171457 加賀金沢の生、  
 臨濟僧;相国寺覚雲頭吉門/南禅寺英中玄賢門;法嗣、景德寺・真如寺住/相国寺104世、  
 南禅寺に転住、金沢藩主前田綱紀の珍籍蒐集に助力、  
 1711「徳翁高禅師塔銘」/「願神老師譚語稿」著、  
 [別宗祖縁の号] 願神/江沙



- 別所(べっしょ・原) → 松洲(しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士) S 2 2 9 3
- 2799 **ノ松**(べっしょう・小杉こすぎ、一笑いっしょうの兄) 1653前-173684以上 加賀金沢の俳人:  
1689芭蕉を迎え弟一笑追悼:92「西の雲」編、  
参照 → 一笑(いっしょう・小杉味頼、俳人) B 1 1 4 9
- 別所供奉(べっしょぐぶ) → 頼慶(らいけい・らいきょう:法諱、天台僧/歌) 4 8 3 4
- B2700 **ノ身**(べっしん・池田いけだ) ? - ? 尾張の俳人/尾陽の3哲の1
- B2701 **別伝**(べつでん;道号・宗分そうぶん;法諱、俗姓;黒川) 1598-166871 安房の曹洞僧/のち臨濟僧;  
1608(11歳)江戸浅草大松寺の舜鏡門;出家/台巖門;嗣法、戒律を諸師に修学/教化活動、  
正保1644-8頃武州靈巖寺住;寛文1661-73頃深川に寺を移し慧然寺と命名、  
曹洞宗から臨濟宗に改宗;江戸の雪山碩林門;嗣法、1664寒松庵に隠棲、  
「別伝禅師骨董」「別伝禅師上表並法語」著、  
[別伝宗分の別法諱] 初法諱;舜貞/次法諱;碩分
- B2702 **別伝**(べつでん;道号・道経どうきょう;法諱) 1635-171278 石見の臨濟僧;聞溪門;出家/のち黄檗僧;  
隠元隆琦・慧林性機門;嗣法、1674撰津有馬郡巴津川の大舟寺住持、  
1705撰津麻田の仏日寺住持、1682「慧林大和尚末期日録」著、「慧林禅師語録」編、  
「人天眼目金鏡」「雪广潤公禅師塔銘並序」「盧山別伝禅師鉄藜」
- B2703 **別当**(べつとう・二条太皇太后宮にじょうたいこうたいごうぐうの/皇后宮女別当こうごうのみやのによべつとう、藤原基俊女) ?-?  
平安後期;二条太皇太后(白河天皇皇女令子内親王[1078-1144])家の女房;齋院在任中出仕、  
別称;二条大宮別当、歌人/物語作者、1046/55六条齋院物語合;物語「霞隔つる中務の宮」作、  
[九重このへにいとど霞はへだてつつ山のふもとは春めきにけり](物語合;1)、  
1066皇后宮寛子歌合参加、続詞花集・秋風集入、勅撰2首;金葉420/千載1112、  
[たのめ置く言の葉だにもなきものをなにかゝれる露の命ぞ](金葉;七恋420)  
[わすれにけるをのこの思ひいでてまうきかよひけるが 又たえにければ、  
今更に何かは袖をぬらさましのなかの清水思ひ出でずは](続詞花;恋651)
- B2758 **別当**(べつとう・菩提院入道前関白家ぼだいいんにゅうどうさきのかんぱくけ、) ?-? 平安鎌倉期;女房歌人、  
藤原基房もとふさ(1145-1230)家の女房、1237刊[檜葉集]5首入、  
[月はをしさてもいとむかたぞなきあけゆくみねの花のしら雲](檜葉;春50)
- B2704 **別当**(べつとう・花園院はなぞのいんの) ?-? 南北期花園天皇付女房/歌人;  
1342康永元年持明院歌合/43院六首歌合/54?法華和歌参加、風雅集1146、  
[さのみただあはれなるしも頼まずかくては人ののはてじと思へば](風雅;十二恋1146)
- 別当(べつとう・皇嘉門院) → 皇嘉門院別当(こうかもんいんのべつとう、源俊隆女、歌) 1 9 8 9
- 別当(べつとう) → 光資(みつすけ・葉室はむろ/藤原、南朝廷臣/歌) D 4 1 6 2
- 別当三位頼子(べつとうのさんみらいし) → 惟方女(これかたのみすめ・藤原) O 1 9 1 9
- 別当典侍(べつとうのすけ) → 冷泉(れいぜい・花園院はなぞのいんの、典侍/歌) 5 1 4 5
- 別当大師(べつとうのたいし) → 光定(こうじょう;法諱、天台僧) F 1 9 1 3
- 別当局(べつとうのつね) → 皇嘉門院別当(こうかもんいんのべつとう、源俊隆女、歌) 1 9 8 9
- 別当法印(べつとうのほういん) → 猷円(ゆうえん;法諱、天台僧/歌人) 4 6 7 6
- ヘップバーン(Hepburn) → ヘボン(宣教師/医者、ヘボン式ローマ字) B 2 7 0 6
- 鼈浦(べっぼ) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
- B2705 **別峰**(べつぼう;道号・大殊だいしゅ/法殊ほうしゅ;法諱、俗姓;遠藤) 1321-140282 周防の臨濟僧;義南門、  
備中呑海寺の靈嶽法穆門/嗣法、大和興聖寺・伊勢清水寺・播磨臨濟寺・備中定林寺を開山、  
さらに河内光通寺・紀伊西光寺を開山/光通寺で没、南朝後龜山天皇から国師号、  
「別峰殊禅師語録」著、  
[別峰大殊の号] 大殊円光国師、
- 別峰院(べつぼういん;法号) → 忠茂(ただしげ・立花たちばな、藩主/歌人) F 2 6 1 2
- B2743 **ノ**(べつ) ? - ? 江中期京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」3句入  
[時づけは頭巾もとらぬ笹の雪](万国燕760、時づけは時間指定の飛脚)
- ノ庵(初世べつあん) → 麻父(まふ、藩士/俳人) K 4 0 0 7
- ノ庵(2世べつあん) → 玉父(ぎよふ、麻父男/俳人) D 1 6 0 9
- ノ子(べつこ;号) → 江雲(こううん;道号・宗竜;法諱、臨濟僧) H 1 9 4 2

- 月主人(へつほつしゅじん) → 蘭溪(らんけい・西門にしかど、医者/歌人) B 4 8 8 8  
 ペトロ人見千斎(ひとみせんさい) → 弁斎(べんさい・人見ひとみ、武芸者) B 2 7 2 2  
 紅粉助(べにすけ・木村) → 園夫(えんぶ・木村、歌舞伎作者) B 1 3 8 6  
 紅屋(べにや・屋号) → 文七(3世ぶんしち・中山、歌舞伎役者) F 3 8 6 4  
 戸々(べ) → 戸々(ここ、平安期歌人) C 1 9 4 7  
 へまうし → 世入道へまうし(よにゅうどうへまうし、狂歌) F 4 7 4 0
- B2706 **ヘボン**(ヘッパ<sup>°</sup>バーンHepburn、James Curits) 1815-1911 アメリカ長老教会宣教師/医者、1859来日、  
 1867最初の和英・英和辞典「和英語林集成」著、ヘボン式ローマ字を創始、  
 ブラウンらと聖書翻訳作業  
 辺(へん・三輪) → 秀富(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌人) D 3 7 3 6
- B2707 **弁**(べん・) ? - ? 平安期歌人;1049(永承4)六条斎院歌合参加;2首、  
 [むらどりの立ち居もあらし水のおもにひまなく見ゆるあさごほりかな]  
 (六条斎院歌合;氷右10)  
 出羽弁と同一? → 出羽辨(いではのべん、平季信女) B 1 1 6 8
- B2760 **弁**(べん・関白家) ? - ? 平安後期歌人;1165清輔[続詞花集]入、  
 [かれがれになりにはける人のもとへ睦月の比ほひ遣しける、  
 忘れにし人をわすれぬ心こそかはれるとしもかはらざりけれ](続詞花;恋653)
- B2708 **弁**(べん・春華門院?) ? - ? 平後期:昇子内親王[1195-1211]家女房?、藤原隆信女?、  
 歌人;1166中宮亮重家朝臣家歌合参加(中御門宗家と5首番)/78廿二番歌合参加;2首、  
 [いさぎよき百日もかのしめの内ながらたえぬは袖のしづくなりけり](廿二番歌合)、  
 (長精進恋八番右38/百日のしめは百日斎戒;精進潔斎)  
 弁(べん) → 弁君(べんのみき、規子内親王家女房?) B 2 7 3 8  
 弁(べん、石清水社別当成清女) → 大式(だいに・修明門院、土佐局/歌人) C 2 6 0 1  
 弁(べん;字) → 日昭(にっしょう;法諱・不軽院、日蓮僧) E 3 3 1 6  
 弁(べん・佐伯) → 弁女(べんじょ/べんによ・佐伯さえき、歌/俳人) B 2 7 2 7  
 卞(べん・中根) → 彦循(げんじゅん・中根なかね、暦算家) J 1 8 7 9  
 冕(べん・陶山) → 南濤(なんとう・陶山すやま、医/漢学) J 3 2 3 4  
 冕(べん・満生) → 大麓(だいろく・満生みつお、儒者) L 2 6 3 9  
 勉(べん・つとむ・木暮) → 松麓(しょうろく・木暮こくれ、儒者/詩人) M 2 2 1 1  
 勉(べん・つとむ・神波) → 船樹(せんじゅ、神波かなみ、医者) M 2 4 4 3  
 弁阿(べんあ;法名) → 弁長(べんちよう;法諱、浄土僧;鎮西流祖) B 2 7 3 6  
 弁阿(べんあ・芦風坊) → 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6  
 偏愛菊道人(へんあいきくどうじん) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゆう久文、国学/儒) E 2 4 5 1  
 勉庵(べんあん・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7  
 弁庵(べんあん・辻) → 広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家) 1 9 1 4
- B2709 **便一**(べんいつ) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」入、  
 [茎立くたちの目貫ぬきか蝶の一つがひ](犬子集;104/茎立は菜の臺とう/目貫は刀柄の金具)
- B2710 **片雲**(へんうん;号・恵範えはん;法諱、明浄寺住職了然男) 1778-1847 備後府中の真宗明浄寺の生;  
 父了然門、安藝竹原の真宗本願寺派照蓮寺入;9世獅弦(恵明)の継嗣;照蓮寺10世住職、  
 詩歌文・書に長ず、照蓮寺住僧斥溪こけい(超倫)・頼春風と親交、「片雲詩集」著  
 片雲(へんうん;号) → 湘南(しょうなん;道号・宗沆;法諱、臨濟僧) L 2 2 2 6  
 片雲(へんうん・武田) → 行忠(ぎょうちゅう;法諱、真宗僧/詩歌) O 1 6 3 1  
 便雲居(べんうんきよ) → 琵琶彦(びわひこ・便々館、加藤保右、商人/狂歌) 3 7 3 1
- B2711 **片雲戸**(へんうんこ) ? - ? 江後期豊前小倉の俳人:  
 1789同郷の夢想庵万空の追善集「影法師」編  
 片雲子(へんうんし) → 遜阿(そんあ;法諱、僧侶/俳人) B 2 5 4 3  
 辺越方人(へんえつほうじん → へこしかたうど) → 方人(かたうど・辺越、狂歌) C 1 5 3 1  
 弁右衛門(べんえもん・佐伯) → 正臣(まさおみ・佐伯さえき、国学者/歌) B 4 0 6 0  
 弁右衛門(べんえもん・赤堀) → 良亮(よしすけ・赤堀あかぼり、藩士/鷹匠/史家) L 4 7 1 3
- B2759 **弁淵**(べんえん;法諱、) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、

- 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [みても猶あかぬ心ぞのこりぬる咲きおくれたる花のこずゑに](檜葉;雑779)
- 弁円(べんえん;法名) → 円爾(えんに;臨濟僧) B 1 3 2 7
- B2712 片海(へんかい) ? - ? 江前期豊前小倉の俳人:談林系/蕉風、  
 1710?「かくれざと」、「そらまめ集」著  
 弁海(へんかい;字) → 日深(にちじん;法諱・中正院、日蓮僧) C 3 3 5 3
- B2713 弁覚(べんかく;法諱、藤原通輔[1060-95]男)1094?-? 叡山天台僧/法印;説法の名手、  
 詩歌人の蓮禅(資基/1093?-?)の弟、慶深(天台僧/歌人)の父
- B2714 弁覚(べんかく;法諱・号;無障金剛)1377?-? 1436存 叡山薬樹院の天台権律師、引声・声明に通ず、  
 1409「辨覚律師伝法灌頂記」、「引声いんせい散華樂等目安」「阿弥陀講式」、  
 「経供養略作法良芸添助衆覚」著
- B2715 弁覚(3世べんかく・宮下みゆした、)1796-185964 信州上田紺屋町の医者;父門/鍼治療に長ず、  
 上田藩に医をもって出仕;8石3人扶持/歌;飯塚久敏・橘守部・橘冬照門、書画骨董の鑑定家、  
 茶・俳諧を嗜む、「一日一首稿」「櫃之下露」著、  
 [弁覚3世(;通称)の名/号]名;致眞むねざね、号;又可/可年/一樹園、法号;創栄(業)院]  
 弁学(べんがく) → 日肇(にちじょう;法諱、大覚院、日蓮僧) C 3 3 4 9  
 扁華軒(へんかけん) → 升雲(しょううん・吉永/菊池、蘭方医) H 2 2 0 0  
 昉柯精舎(べんかしようじや) → 桂叢(けいそう・桑原くわばら、絵師) G 1 8 2 8  
 卞関(べんかん;字) → 宗賢(しゅうけん;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 1 0  
 弁基(弁紀べんき;法名) → 老(おゆ・春日蔵首かすがのくらのおびと、万葉歌人) 1 4 2 6
- B2716 遍宜(扁耆へんぎ・吉村よむら、名;貞兼)?-1785 鹿児島藩士、撃剣・騎馬を好み任侠を以って有名、  
 医者志し剃髪/京の吉益東洞門;古医方/師の説を疑い帰郷、亀井南冥と傷寒論で投合、  
 「痘疹必用」「人參説」著、[遍宜(;通称)の号] 臨古  
 弁基(弁紀べんき・春日蔵首老) → 老(おゆ・春日、歌/詩・官人) 1 4 2 6
- B2717 弁吉(べんきち・中村屋なかむらや)1801-7070 京の人/1831加賀石川郡大野に移住/仕掛細工;  
 彫刻に長じ螺旋仕掛による自動の人形・動物を制作/写真・電気・爆薬を使用、  
 「奇器製作書」著、[大野の弁吉]として有名、  
 [弁吉(;通称)の号] 一東/鶴寿軒、屋号;中村屋  
 弁吉(べんきち・酒井) → 忠昌(ただはる・酒井さかい、浪人?/文筆家) Q 2 6 5 2  
 遍救(へんきゅう) → 遍救(へんぐ/へんく、天台僧/歌) B 2 7 2 1  
 遍行(へんぎょう;法号) → 花園天皇(はなぞの、京極派歌人) 3 6 2 2
- B2718 弁教(べんきょう;法諱、左衛門尉盛綱男[勅撰作者部類])?-? 僧侶;法印、歌;新千載1787、  
 父を宇都宮盛綱(上総介五郎左衛門)とすると頼綱(蓮生)の曾孫となる、  
 [月の入る跡は小倉をらの山かげにひとりさやけき小牡鹿をしかの声](新千載;1787)  
 [弁教の別法諱] 弁敷べんこう/弁嗽べんごう
- B2755 弁旭(べんきょく;法諱・北条ほうじょう、)1843-191876 近江蒲生郡安土村の浄土宗僧;  
 1855(安政2/13歳)近江八幡の願故寺の伸誉門;得度、1871彦根円常寺住職、  
 江戸増上寺闡譽教音の法嗣/1886東京浅草の幡随院に転任;宗務執綱/宗務顧問、  
 1896長崎大音寺転任/97京都知恩院執事/1905(明治38)大本山百万遍知恩寺住職、  
 1908管長代理/11(明治44)大僧正;増上寺再建尽力、18(大正7)巡錫中に島根三隅村に没、  
 詩歌を嗜む;家集「采花堂集」、  
 [弁旭の号] 康誉/古凱/百非/超雲  
 弁敷(べんこう;法諱) → 弁教(べんきょう;法諱、僧/歌人) B 2 7 1 8
- B2719 弁晁(べんせう;法諱・法橋隆助男)1139-120264 東大寺の華嚴学僧:慶俊門、法相・真言にも精通、  
 尊勝院住/学侶の貫主;尊勝院を華嚴の中心道場にする、後白河上皇より招聘され論説、  
 法印/権大僧都/1199東大寺別当;1202辞退、道性・尊玄・教寛らの師、  
 「季御読経問答」「法華経抄」「因明短冊」著  
 晁嶠陳人(べんせうちんじん) → 冠山(かんざん・松平/池田、藩主/和漢学) D 1 5 8 0
- B2720 弁玉(べんぎょく;法諱、俗姓;大熊おおくま、幼名;鉄之助、大熊卯八男)1818-8063 江戸浅草の浄土僧、  
 1827(10歳)下谷清徳寺の大潮門/芝増上寺で修行、1850神奈川三寶院住職、

歌：橋守部・岡春平門、大沼枕山と交流、「弁玉詠草」「浜のこつみ」、家集「瑣々室ゆらむる集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[なつかしき妹によそふる杜若誰にゆるしの色に咲くらん](大江戸倭歌;春336)

[弁玉(;法諱)の初法諱/通称/号/法名]初法諱;満潮、通称;慶阿上人/弁玉和尚、

号;瑣々室ゆらむる、法名;善蓮社浄誉清歌興

- B2721 **遍救**(へんく/へんく;法諱、藤原仲平男?)962-1030<sup>69</sup> 京の左京の生/叡山天台僧;覚忍僧都に入室、北野別当是算門、1001明豪の推挙で惣持寺阿闍梨/13呪詛の嫌疑で律師懷寿から暴行を受、1021権律師/24権少僧都/28少僧都:雲林院門跡/静慮院門徒/最勝講講師を務む、藤原道長邸で法華三十講の講師、歌:後拾遺集741、  
[逢坂の関の清水や濁るらん入りにし人の影の見えぬは](後拾遺集;十三恋741)、  
(稚児への恋/三井寺に入ってしまった稚児の姿が見えない;心変りしたか)

遍空(へんくう) → 快倫(かいりん;法諱、天台僧) J 1 5 1 3

- B2744 **弁空**(へんくう;法諱) 1344 - ? 1431(88歳)存 山城大原野の天台三鈷寺の住持、天台声明の大家、「法華懺法呂」著

片屈道人(扁屈-へんくつどうじん) → 胴脈先生(どうみやくせんせい、畠中観斎、狂詩) 3 1 2 2

弁慶庵(へんけいあん) → 惟然(いぜん・広瀬ひろせ、俳人) 1 1 2 8

- B2745 **便原亭広城**(べんげんていひろき)?- ? 江後期三河加茂郡御立村の狂歌作者、1858「狂歌三河名勝図会」共編(便財亭島也と)

弁吾(べんご・中村) → 義芳(よしふさ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 3

弁敷(べんこう;法諱) → 弁教(べんきょう;法諱、僧/歌人) B 2 7 1 8

弁嗽(べんごう;法諱) → 弁教(べんきょう;法諱、僧/歌人) B 2 7 1 8

片枯先生(へんこせんせい) → 宗瑞(2世そうざい・広岡/菅、藩士/俳人) I 2 5 1 2

弁五郎(べんごろう・真中) → 珍重(ちんちゆう・羽川はねかわ/太田、絵師) K 2 8 8 9

- B2722 **弁斎**(べんさい・人見ひとみ、名;宗次)?-? 江初期常陸久慈郡太田村の武芸者(伏見or丹波出身説?)、天流剣術;斎藤法玄門/高麗・大和・鹿島・小笠原・八条・大坪諸流の武芸を修得、人見流馬術・棒術の開祖、1603佐竹氏に従いキリスト教徒;佐竹家臣を教化、1613米沢藩主上杉景勝に出仕;総監として馬場を築造、1613「人見流拔覚集」54「拔覚集」著、  
[弁斎(;)の通称/別号]通称;熊助/熊介/熊之助/清左衛門、別号;卞斎べんさい、  
受洗後;スチアゴ/アゴスチノ/ペトロ人見千斎

弁濟(べんさい・石尾) → 有則(ありのり・石尾いしお、藩士/歌/宗教) G 1 0 9 9

- B2723 **弁才**(べんさい;法諱・妙空;号)1770-1824<sup>55</sup> 浄土宗西山流西谷派の僧;紀伊梶取総持寺41世、1819青蓮院宮から永代紫衣を許可/24釈迦堂建立、及粹・明鳳の師、1814「三祖要訓」、1815「西山国師図会全伝」16「あさじのみやげ」20「命の親」、「砂子の戯」「円頓百話」外著多

勉斎(べんさい・廬) → 驥(き・廬ろ/栗崎くりさき、通事/詩文) J 1 6 4 7

勉斎(べんさい・曾我) → 祐申(すけのぶ・曾我そが/岡本、藩士/教育) I 2 3 7 0

- B2724 **便財亭島也**(べんさいていしまなり)?- ? 江後期三河加茂郡四郷村の狂歌作者:1858「狂歌三河名勝図会」共編(便原亭広城と)

弁左衛門(べんざえもん・浅井) → 政辰(まさとき・浅井、藩士/俳人) E 4 0 3 7

辺司(へんじ・渡辺) → 方壺(ほうこ・佐々木ささき/渡辺、儒者) F 3 9 1 5

弁子(べんし・野村) → 弁子(ともこ・野村、国学) P 3 1 1 8

勉之(べんし・木暮) → 松麓(しょうろく・木暮こぐれ、儒者/詩人) M 2 2 1 1

弁次(べんじ・檜村) → 守国(もりくに・橋たぢばな/檜村、絵師) F 4 4 3 7

弁次(べんじ・赤堀) → 良亮(よしすけ・赤堀あかぼり、藩士/鷹匠/史家) L 4 7 1 3

嬬子内親王(べんしなないしんのう) → 寿成門院(じゅじょうもんいん、後二条皇女) I 2 1 7 2

便沙彌(べんしゃみ) → 恵中(えちゆう・草庵、曹洞僧/仮名草子) 1 3 7 5

- B2725 **弁二**(べんじ・達田たつた) ? - ? 江中期安永天明1777-89頃江戸の浄瑠璃作者、江戸外記座・肥前座の立作・協作者、多田大吉と同一説あり、1775「糸桜本町育」補筆、

1779「驪山めぐり比翼塚」「伊達競阿国戯場だてくらべおくにかぶき」、80「裙重血紅歧」90「薫樹累物語」著

弁治(べんじ・留守) → 希斎(きさい・留守す/遊佐ゆさ、儒者) I 1 6 5 2

弁七(べんしち・植木) → 直枝(なおえ・植木うえき、藩士/国学) L 3 2 2 9

- 弁珠(べんじゆ;字) → 姫岳(きぎく;号・明洗、天台僧/俳人) J 1 6 8 4
- B2726 弁住(べんじゆ;法諱) ? - ? 戦国期大永1521-28頃上総長南台談所の天台学僧、  
1525「六即義梨耶一念」著
- 徧詢(へんじゆん;字) → 智周(ちしゆう;法諱・徧詢;字、天台僧) E 2 8 3 2
- 勉所(べんじよ・小林) → 勝清(かつきよ・小林こばやし、大庄屋/歌) U 1 5 6 2
- B2727 弁女(べんじよ/べんによ・佐伯さえき、名;弁、佐伯正次女)?-? 江前期撰津池田の歌人/俳人;季吟門?、  
5歳;筆道を修学/7歳;四書を読む、1667湖春「続山の井」/76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
1684西鶴「俳諧女哥仙はいかいにかせん」入;  
[雨ふりの柳の髪の水油](女哥仙;9/水油をつけたような柳の糸/我身の乱れ髪を思う)  
扁勝(遍勝へんしやう;法諱)→ 乗徳(じやうとく・明達院、真宗僧/歌人) U 2 2 9 8
- 2705 遍昭(遍照へんじやう;法諱、俗姓;良岑よしみね、名;宗貞、良岑安世男)816-89075 桓武天皇の孫、廷臣、  
仁明天皇に近侍/844蔵人/左兵衛佐/左近少将/849蔵人頭/850従五上;天皇の死で出家、  
各地修行/叡山天台僧;855円仁門;菩薩戒を受/山科元慶寺開;座主/869法眼/879権僧正、  
885僧正/光孝天皇より70賀を賜る、歌人:六歌仙の1、大和物語に逸話、「花山記」「遍昭集」著、  
勅撰36首;古今(17首27/91/119以下)後撰(5首49/123以下)拾(5首)新古(757/1817)以下、  
「息災護摩」「胎蔵界私記」「金剛界私記」「金剛界灌頂台七日夜記」著、  
[天つ風雲の通ひ路吹きとちよ乙女の姿しばしとどめむ](古今集;872)、  
[遍昭の通称]花山僧正/中院僧正/良僧正、弘延・由性ゆせい・素性・椋橋玄理の父
- B2728 弁正(べんしやう;法諱、俗姓;秦)?-? 奈良期渡来系詩人/若年に出家;仏教学修得、  
1701-4遣唐使に随行渡唐;玄宗に賞遇/唐で朝慶・朝元の2子を設けて没;朝元は渡来し仕官、  
懐風藻2首入  
参考 → 朝元(ちやうげん・秦、医/官吏、万葉左注入) I 2 8 1 0
- B2729 弁成(べんじやう;法諱) ? - ? 1749存 山城護国寺(山科檀林)の日蓮僧、  
1749「法華文句参解」著
- 遍照庵(へんじやうあん;号/諡号;遍照院)→ 大乘(だいじやう;法諱・慧運、真宗僧) K 2 6 3 6
- 遍照院権僧正(へんじやういんのごんそうじやう)→ 頼印(らいいん;法諱、真言僧正/歌人) 4 8 1 5
- 遍昭光院(へんじやうこういん)→ 公賢(きんかた・洞院とういん、太政大臣/歌) 1 6 5 9 /
- 遍照金剛(へんじやうこんごう;号)→ 空海(くうかい、真言宗祖) 1 7 0 1
- 遍照金剛(へんじやうこんごう;号)→ 皇慶(こうげい;法諱、天台僧) I 1 9 4 3
- 遍照金剛(へんじやうこんごう;称)→ 貞円(ていえん;法諱、天台僧) 3 0 3 4
- 遍照寺僧正(へんじやうじのそうじやう)→ 寛朝(かんちやう;法諱、真言僧) R 1 5 4 0
- 遍照寺僧都(へんじやうじのそうず)→ 清寿(しやうじゆ;法諱、真言僧) J 2 2 4 9
- 遍照寺法務(へんじやうじのほうむ)→ 経範(けいはん・きやうはん;法諱、真言僧) G 1 8 5 4
- 遍照寺宮(へんじやうじのみや)→ 道晃親王(どうこうしんのう、天台修験門跡/歌・連歌) E 3 1 0 6
- 返照道人(へんじやうどうじん;号)→ 宗興(しゆうこう;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 2 2
- 遍照無障金剛(へんじやうむじやうこんごう)→ 願海(がんかい、天台僧/千日回峰) Q 1 5 0 7
- 弁四郎(べんしろう・内藤/竹田)→ 広貞(ひろさだ・竹田たけだ、能楽師) F 3 7 8 4
- 弁次郎(べんじろう・西郷/平尾)→ 芹水(きんすい・平尾ひらお、儒者/詩) J 1 6 0 3
- 弁次郎(べんじろう・保倉)→ 玄朝(げんちやう・保倉ほくら、医者/製薬) L 1 8 4 0
- 弁次郎(べんじろう・三瀬)→ 周三(しゅうざう・三瀬みせ、洋学者) X 2 1 8 9
- B2730 片水(へんすい) ? - ? 江中期三河貝吹の俳人;序草の遺志を継承;  
1766「八橋集」(除来と共編)
- B2731 弁瑞(べんずい;法諱、法名;音蓮社譽誉)?-1825or1824 羽前山形の僧;禅宗で出家/  
浄土僧;岩代二本松の台運寺随応門、蝦夷善光寺3世、アイヌの教化に尽力;引歌で舞踊、  
「結縁同行蓮華講中権化和譚」創作、病人に看病施米;ネンブチカモイ(念仏神様)と称さる、  
「子引歌」作、江戸霊巖寺の旅宿で没
- 弁助(べんすけ・本田) → 東陵(とうりやう・本田、儒者/詩文) I 3 1 2 9
- 弁助(べんすけ・井上) → 千芥(せんかい・井上いのうえ、俳人) L 2 4 9 1
- 弁助(べんすけ・小関) → 三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) E 2 0 1 3
- 弁成(べんせい;字) → 日晷(にちぎやう;法諱・知見院、日蓮僧) B 3 3 4 2

- 弁成(べんせい) → 弁成(べんじょう;法諱、日蓮僧) B 2 7 2 9
- B2732 片石(へんせき・上野うえの、名;安載、安直男) 1685-1757 73 出羽庄内藩士/俳人:廬元坊・麦阿門、  
出羽鶴岡住、分家し江戸定府となる、1736「袖土産集」著(;麦阿への国土産)、「石叟遺稿」、  
[片石(;)号]の通称/別号]通称;伴四郎/平格、別号;水巒舎/石叟、法号;雪岸院
- B2733 鞭石(べんせき・福田、井龜軒/而咲じょう堂) 1650-1728 79 京の俳人:似船門、「磯馴松」著、  
1694友琴;卯花山集入/96良弘「高天鶯」/1702鷺水「若えびす」/03俳諧曲太鼓入、  
点者;1729隆志「俳諧草結」点句入、追善集「岸柳」7忌追善「糸柳」知石・孫練石編
- 勉善(べんぜん・小谷) → 廉泉(れんせん・小谷こたに、藩儒) B 5 1 2 4
- 便儂堂(べんせんどう) → 溪栖(けいせい・葵岡、絵師;北溪門) G 1 8 2 0
- B2734 弁三(べんそう) ? - ? 尾張熱田の俳人;1695東藤とうとう「熱田皺笥物語」歌仙入、  
1703祖月「蓬萊嶋」入
- 弁蔵(べんぞう・皆川) → 教純(のりずみ・皆川みながわ、藩士/記録) E 3 5 7 6
- 弁蔵(べんぞう・村上) → 影面(かげも/かげおも・村上、藩士/国学者) B 1 5 9 7
- 弁蔵(べんぞう・安藤) → 因蔭(よしかげ・安藤あんどう/河村、国学) L 4 7 3 3
- 弁造(榎造べんぞう・中村) → 義芳(よしふさ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 3
- 勉蔵(べんぞう・服部) → 中英(なかひで・服部はつとり/宍戸、歌人) O 3 2 3 7
- 鞭草庵(べんそうあん) → 一如(いちにょ;法諱・津々良つら、日蓮僧/画) K 1 1 4 4
- 蝙蝠居士(へんそこじ) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6
- 弁躰(べんたい・内山) → 眞龍(まこと・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0
- 遍智院僧都(へんちいんのそうず) → 義範(ぎはん;法諱、真言僧) L 1 6 8 2
- 遍智院僧都(へんちいんのそうず) → 道教(どうきょう、真言僧) C 3 1 8 4
- 遍智院宮(へんちいんのみや) → 聖尊法親王(しょうそんほっしんのう、真言僧/歌人) U 2 2 0 6
- B2735 偏直(へんちき、大盤山人) ? - ? 洒落本作者;1781「新吾左出放題盲牛」著
- B2736 弁長(べんちやう;法諱、古川ふるかわ則茂男) 1162-1238 77 筑前香月の僧;1168(7歳)菩提寺妙法門;出家、  
叡山で天台僧/1189帰郷/90油山の学頭/筑前明星寺三重塔再建;本尊依頼のため上京、  
1197法然[源空]門;浄土宗に改宗/1204久留米の厨寺で千日念仏興行、浄土宗第二祖、  
1220筑紫善導寺で九州における浄土宗義確立;鎮西流の祖、浄土宗第3代良忠の師、  
1827国師号を受、「浄土宗要集」「念仏名義集」「念仏三心要集」「宗要本来口伝鈔」、  
「法然上人口訣」編、「善導大師和讃」「聖光上人臨終用意」「臨終用心抄」、  
1237「識知浄土論」「徹選撰本願念仏集」外著多数、「一言芳談」に法語入、  
[弁長(;)法諱]の法名/通称/諡号]法名;弁阿/聖光房、  
通称;鎮西上人/筑紫上人/善導寺上人/二祖上人、諡号;大紹正宗国師
- 勉亭(べんてい) → 梅洞(ばいどう・林、儒者) B 3 6 8 9
- 片鉄翁(へんてつおう) → 友信(とものぶ・三宅、蘭学者) Q 3 1 2 2
- B2741 徧典(へんてん;法諱) ? - ? 江後期天台修験僧/叡山宝珠院・覚林房住僧、  
1831千日回峰満行/1853探題、  
「葛川蓮華会法則」「伝法灌頂有職用心」「灌頂日記私神供鉢」著
- B2737 蝙蝠(へんどう) ? - ? 志摩鳥羽俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- B2746 徧道(へんどう;法諱) ? - ? 江後期天台叡山僧;法曼院住/1855戸津説法を勤仕、  
のち金剛院住/1875京都の嘉祥寺転住、1858「常憲院殿百五十回胎曼供法則」著、  
「文恭院殿十七回忌胎曼供法則」「温恭院殿御三回忌常行三昧法則」著
- S2757 弁道(べんどう;法諱・山田やまだ、名;弁道さだみち) 1821-91 71 信濃佐久郡小諸吉祥院の修験(家業)、  
国学;小林松蔭・平田鍬胤門、ペリーの来航時に朝廷の命をうけ吉野で外敵退散の祈祷、  
維新号;教導職、1873「信陽新報」を発刊、「浅間神社考」著、1891(明治24)没  
[弁道(名/法諱)の号]号;葵園/吟泉
- ヘンドリック・ドーフ → ドーフ(H. Doeff、蘭日辞典) H 3 1 0 1
- ヘンドリック(・フレデリック) → 昌高(まさたか・奥平/島津、藩主/蘭学) D 4 0 2 3
- 弁日(べんにち;法諱・東溟) → 東溟(とうめい;道号・弁日、曹洞僧) H 3 1 3 4
- 弁女(べんにょ・佐伯) → 弁女(べんじょ/べんにょ・佐伯さえき、歌/俳人) B 2 7 2 7
- 弁阿闍梨(べんのあじり) → 隆遍(りゅうへん;法諱、真言大僧都) F 4 9 5 3

- 弁阿闍梨(べんのあじやり) → 日道(にちどう;法諱、日蓮僧) C 3 3 9 7
- B2738 弁君(べんのみ) ? - ? 規子内親王家女房?/歌人;  
972女四宮(規子内親王)前栽歌合(判者源順)参加(;物名;紫蘭しに)、  
[別れゆく秋を惜しらに鳴く鹿は涙をさへやとどめかぬらん](女四宮歌合;7/大系10)
- B2750 弁更衣(べんのかうい、参議藤原有相[908-959]の女)?-? 村上天皇の更衣、兄弟に方儀、  
歌人:960村上天皇主催の天徳内裏歌合参加;女房右方の頭(左方は中将更衣藤原修子)  
弁の宰相の君(べんのさいしゅうのみ)→美作三位(みまさかのさんみ、女房/歌人) F 4 1 8 4  
弁之丞(べんのじょう・広田)→ 助侑(すけなみ・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 2 3 0 8  
弁之助(べんのすけ・本多)→ 忠寛(ただひろ・本多ほんだ、俳人) Q 2 6 6 9  
弁之助(べんのすけ・鈴木)→ 半右衛門(はんえもん・津打つうつ、歌舞伎役/作者) H 3 6 2 7  
弁之助(べんのすけ・海保)→ 竹逕(ちくけい・海保かいぼ、幕府儒者) C 2 8 9 0  
弁之助(べんのすけ・山県)→ 守雌斎(しゅしさい・山県/吉田、藩士/儒者) Y 2 1 8 6  
弁之助(べんのすけ・中嶋)→ 信敬(のぶのり・中嶋、幕臣/文筆) C 3 5 7 6  
弁之助(べんのすけ・田村)→ 村顕(むらあき・田村たむら/伊達、藩主) D 4 2 8 8  
弁之助(べんのすけ・伊東)→ 祐春(すけはる・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 0  
弁之助(べんのすけ・金野)→ 博昌(ひろまさ・金野さんの/横前、国学) J 3 7 3 2  
辨之助(べんのすけ・安部井)→ 帽山(ぼうざん・安部井あべい/安田、藩儒) B 3 9 2 0  
弁之介(べんのすけ・飯田)→ 範正(のりまさ・飯田いだ、藩士/連歌) F 3 5 7 6  
弁僧都(べんのかみ) → 賢清(けんせい・真言僧/歌人) E 1 8 2 4  
弁僧正(べんのかみじょう) → 定豪(じょうごう;法諱、大僧正/歌人) V 2 2 7 7  
弁の大僧正(べんのだいじょう)→ 寛助(かんじょ;法諱・善巧、真言僧) M 1 5 5 6
- 2706 弁内侍(べんのないし・後深草院ごふかくさいん、藤原信実女)?-? 鎌倉期女房歌人、藤原雅平の妻、  
新陽明門院中納言の母、後深草天皇の東宮時代から出仕/妹の少将内侍没後に出家、  
晩年は仰木の里に住(井蛙抄入)、1246-52「辨内侍日記」、1243河合社歌合参加、  
1248宝治百首・51影供歌合に参加、藻壁門院少将の妹・後深草院少将内侍の姉、  
勅撰45首;続後撰(178/247/391/671)続古(6首)続拾(9首)新後撰(6首)以下、菟13句入、  
[おく露は草葉のうへと思ひしに袖さへぬれて秋は来にけり](続後撰集;五247)、  
(九月十三夜十首歌合に初秋露)、  
参考 → 少将(しょうしょう・藻壁門院) T 2 2 2 3  
→ 少将内侍(しょうしょうのないし・後深草院) N 2 1 9 1
- B2739 弁内侍(べんのないし) ? - ? 南朝歌人;  
1388室町幕臣松田貞秀より良基「近来風体抄」(1387成立)を贈らる(;続群書本奥書)、  
なお1375「南朝五百番歌合」(宗良親王判)の弁内侍は師成親王もろしげんのう[慧梵えほん]の変名  
弁典侍(べんのないし) → 大弐三位(だいにのさんみ、紫式部女賢子/歌人) 2 6 0 6  
弁内侍(べんのないし) → 宮内侍(みやのないし、平安期歌人) G 4 1 0 1  
弁入道(べんのにゅうどう) → 光俊(みつとし・葉室・藤原、眞観、歌人) 4 1 2 6  
弁入道貞憲(べんのにゅうどうていけん)→ 貞憲(さだのり・藤原、廷臣/出家/歌人) C 2 0 3 2  
弁法印(べんのほういん) → 隆遍(りゅうへん;法諱、真言大僧都) F 4 9 5 3  
弁法師(べんのかみ) → 能禅(のうぜん・大覚院法印、真言僧) 3 5 4 5
- 2707 弁乳母(べんのみと、藤原順時まさとき女の明子)?-? 平安中期歌人、母:紀敦経女、参議藤原兼経の妻、  
三条天皇皇女陽明門院禎子内親王の乳母、讃岐入道頭綱の母、歌;1032上東門院菊合参加、  
1038源師房歌合/47内裏歌合/76大井河行幸和歌参加/78内裏歌合参(80余歳?)、  
頼通・道綱と交渉、家集「辨乳母集」、玄々集入・続詞花集4首入、  
勅撰32首;後拾(61/72/779/899/1056/1071/1185)金葉(454)千(3首)新古(2首)以下  
[をりしもあれいかに契りてかりがねの花の盛りに帰りそめけん](後拾遺集;一春72)  
[こひしさはつらさにかへてやみにしをなにの名残りかかくはかなしき]、  
(玄々集;165/続詞花;恋658;4句なにの残りて)  
弁乳母(べんのみと、藤原賢子、紫式部女)→ 大弐三位(だいにのさんみ) 2 6 0 6  
蝙蝠庵(へんぷくあん) → 六林(ろくりん・堀田方旧まさひさ、詩/俳人) B 5 2 1 8  
蝙蝠軒魚麻呂(へんぷくけんうまろ)→ 魚丸(うまる・佐藤、狂歌/浄瑠璃作者) 1 2 0 1

- 蝙蝠齋(へんぶくさい・小野) → 弘度(ひろのり・小野おの、商人/心学者) G 3 7 9 0  
 蝙蝠山人(へんぶくさんじん) → 德基(のりもと・津守つもり、歌人/書家) J 3 5 1 4  
 蝙蝠麿(へんぶくまろ → かわほりまろ・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4  
 蝙蝠老人(へんぶくろうじん) → 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん・和田、幕臣/狂歌) E 3 6 0 6  
 弁癖(べんへき・渡辺) → 竜門(りゅうもん・渡辺/源、藩士/随筆) F 4 9 7 8  
 便々館湖静(べんべんかんこせいう) → 湖静(こせい・便々館、狂歌) D 1 9 2 7  
 便々館湖鯉鮒(べんべんかんこりゅう) → 湖鯉鮒(こりゅう・便々館、大久保正武、幕臣/狂歌) E 1 9 0 2  
 便々館琵琶翁(べんべんかんびわおう) → 湖静(こせい・便々館、狂歌) D 1 9 2 7  
 便々館琵琶麿(べんべんかんびわまろ) → 琵琶麿(びわまろ・便々館、狂歌) 3 7 3 3  
 便々館琵琶彦(べんべんかんびわひこ) → 琵琶彦(びわひこ・便々館、狂歌) 3 7 3 1  
 便々居(べんべんきよ) → 春鴻(春江しゅんこう・美濃口、俳人) 2 1 5 7
- 2708 便々居壽彦(べんべんきよとしひこ、姓;皆川、通称;皆川屋由三郎)?-? 江後期尾張名古屋古渡山王前住、  
 琵琶連狂歌判者、1850「新続六々狂謡仙」編  
 弁物舎(べんぶつしゃ) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1  
 勉甫(べんぼ・高階) → 氷壺(ひょうこ・高階たかしな、儒者/詩) F 3 7 1 9  
 遍明(へんみょう) → 高岳親王(高丘-たかおかしんのう、眞如、眞言入唐僧) L 2 6 6 4  
 遍明(へんみょう) → 齊世親王(ときよしんのう、眞言仁和寺僧) K 3 1 3 3
- B2747 弁明(べんみょう;法諱) ? - ? 江中期近江の真宗本願寺派円立寺住職、  
 1796安居で[選択本願念仏集]を講ず、「念仏為本信心為本会釈」著  
 便妙(べんみょう;字) → 日騰(にっとう;法諱・久遠院、日蓮僧) F 3 3 4 9  
 徧無為(徧無為へんむい) → 貞鎮(さだしず・依田よだ/五十嵐、神道家) I 2 0 2 7
- B2748 徧明(へんめい;法諱) ? - ? 江中期江戸千駄木大保福寺住の天台僧/大僧都、  
 1787「能延六月秘法」著  
 便有(べんゆう・片岡) → 光吉(みつよし・片岡かたおか、医者) F 4 1 2 0
- 2709 便游舎折主(べんゆうしゃおりぬし)?-? 江後期三河加茂郡百々の狂歌作者、  
 1858「狂歌三河名勝図会」著  
 遍誉(へんよ・照蓮社) → 了海(りょうかい;法諱・単阿、浄土僧) G 4 9 7 6  
 鞭羊居愚僂(べんようきよぐせん) → 精斎(せいさい・新井/志鎌、医者/俳) I 2 4 2 3  
 ヘンリック・ファン・テン・ベルグ → 盛永(もりなが・伊藤いとう、本陣宿経営) I 4 4 8 3  
 弁立(べんりゅう;字) → 日文(にちぶん;法諱・寿量院、日蓮僧) D 3 3 1 7  
 弁竜(べんりゅう;字) → 日透(にっとう;法諱・妙解院、日蓮僧) F 3 3 4 5  
 弁竜(べんりゅう;字) → 深玄(しんげん;法諱・弁竜;字、眞言律僧) O 2 2 2 0
- B2754 弁了(へんりょう;法諱) ? - 1866 飛騨高山の真宗大谷派の暎芳寺16世、国学者  
 弁蓮社入観(べんれんしゃにゅうかん;法諱) → 良定(りょうじょう;法諱、浄土僧/琉球に布教) 4 9 1 8  
 勉廬(べんろ・金子) → 霜山(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) B 2 5 6 2